



2022年3月期 決算説明会資料

未来のNOBLEを見据えて
抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

2022年6月1日

◆ 事業環境

- エレクトロニクス業界においては、経済回復やデジタル化が進展しており需要自体は拡大基調である。
- 具体的には環境規制によりEV等の環境対応車へのシフトが加速しており、自動車関連市場向け部品の需要が拡大。また、ゲーム機市場向け等全体的に受注は堅調に推移している。
- 一方、半導体、電子部品や原材料等の調達難から、一部お客さまの生産計画の見直しによる納入調整要求や、物流ひっ迫によるサプライチェーンの混乱等、不安定要素が多く、また、サプライヤーからの価格調整要求も強く、予断を許さない状況が継続している。

◆ 2022年3月期決算概要

- 製品別・市場別の売上高の全項目において、前年同期比増収にて着地。
- 国内外の生産効率を高め、固定費等の削減に注力した結果、利益率も改善。
- 上記結果により、連結売上高151億円・連結営業利益16.9億円と大幅に増収増益を計上した。

◆ 2023年3月期予想

- プライム市場上場
- 急激な円安や地政学リスクを背景とした資材価格の高騰、コロナ禍での生産・物流の停滞が発生。
- 生産能力・組織力拡大に向けた、積極的な設備投資や人財増強によるコスト負担が増加傾向。
- 一方で受注は良好、かつ価格見直し交渉も継続して進めることから、連結売上高158億円・連結営業利益13億円を計画。

◆ 中期経営計画（修正版）

- 基本的な経営方針は不変ながら、2022年3月期の想定以上の業績結果を踏まえ、数値目標を見直し。
- 中期経営計画を3段階のステップに分け、売上計画・投資計画・配当政策を組み込み、経営指標の目標値も開示することで、より変革に向けた意思を「見える化」した計画になっている。

- 弊社の特徴と強み
- 2022年3月期決算概要
- 2023年3月期業績予想
- 中期経営計画（修正版）

● 弊社の特徴と強み

- ▶ 会社概要
- ▶ 私たちの強み
- ▶ 金型設計・製造
- ▶ スクリーン印刷
- ▶ 成型・プレス加工①②
- ▶ 自動組立、品質保証
- ▶ 事業フィールド
- ▶ コア技術を活かした2つのビジネス展開
- ▶ 市場別主力製品
 - (ご参考) 成長市場—①医療・ヘルスケア
 - (ご参考) 成長市場—②産業機器・ロボット

会 社 名	帝国通信工業株式会社 Teikoku Tsushin Kogyo Co.,Ltd.
本 社 所 在 地	神奈川県川崎市中原区荻宿 4 5 - 1
創 業	1 9 4 4 年 8 月 1 日
代 表 者	代表取締役社長 羽生 満寿夫 (はにゆう ますお)
資 本 金	3 4 億 5 3 0 0 万円
従業員数 (連結)	1,605名 (2022年3月31日現在 連結)
連結売上高	151億円 (2022年3月期 連結)
グループ会社数	連結子会社 日本国内6社 海外9社 合計15社
事業内容	電子回路を制御する抵抗器やセンサー、スイッチなどの各種電子部品を「NOBLE」ブランドで国内・海外に展開している、1944年に創業の総合電子部品メーカー

帝通の強み

幅広いニーズに応えるべく、独自のフィルム印刷と成型・プレス加工という2つの技術をコアに、設計・開発・アセンブリまで自社で一貫生産対応を基本に様々なオーダーにこたえられることが私たちの強みです。



製品設計

お客さまのご要望に合わせた、製品設計を行い、各種市場からの要求に応える

金型設計

金型の設計・加工を自社対応し、弊社独自加工の基礎を支える

スクリーン印刷

フィルム・PCB基板への印刷を自社対応し、回路基板を製造する

成型・プレス

成型加工・プレス加工を自社対応する
樹脂には塗装や印刷による加飾加工も対応

組立加工

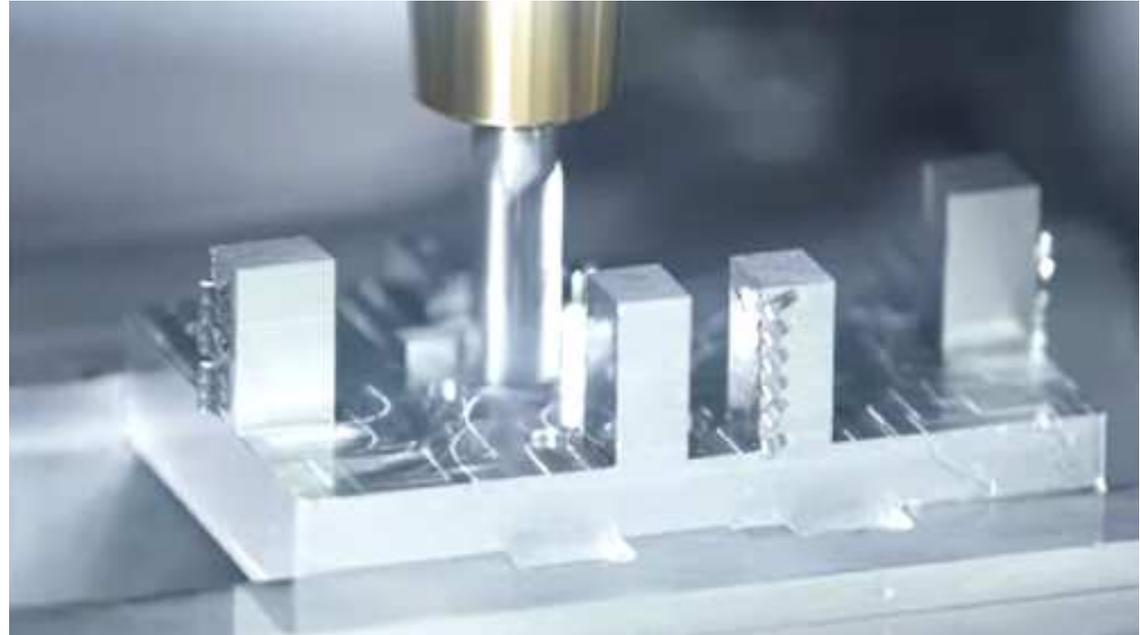
部品製作・組立加工の設備構築もすべて社内に対応することで、高い信頼性を確保する

弊社の特徴と強み

金型設計・製造

NOBLE

内製化された金型

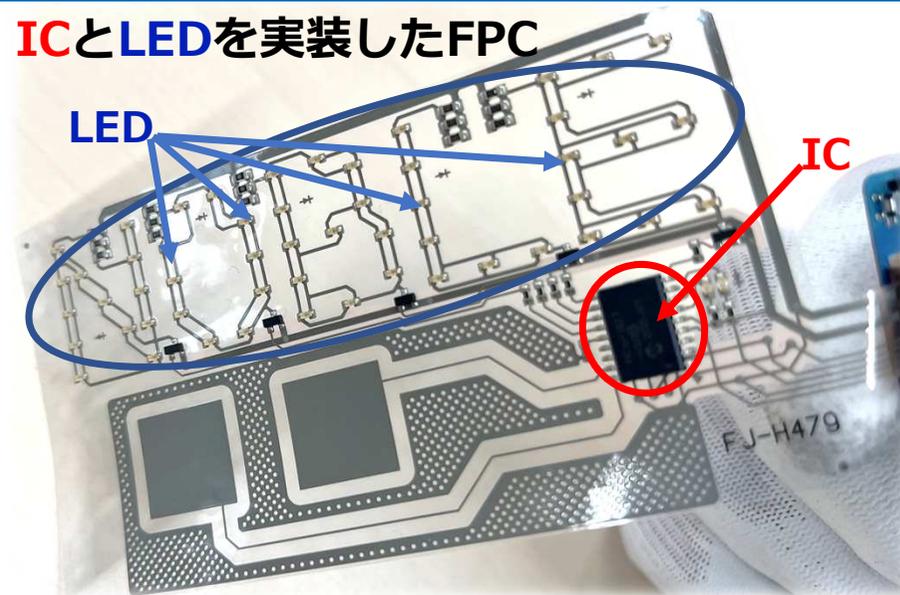


自社で使用する成型金型、プレス金型を設計から加工まで対応。国内外に金型加工部門を保有。弊社独自の生産方式にマッチした自社オリジナル金型の加工を行い、各種難易度の高い一体成型や、高精度な部品加工を実現。

NOBLEのFPC※1 (Flexible Printed Circuits)



ICとLEDを実装したFPC



電子回路を形成する場合、一般的に採用されるのはエッチング基板工法である。弊社が行うスクリーン印刷は、必要な箇所だけにパターンを印刷し、回路形成をするため、製造時の廃棄物が少なく環境にやさしいことも特徴となっている。また、非接触ICカードのアンテナや、心電図・脳波等の測定電極にも使われており、更に基板に使用している、PETフィルムへの半導体などの部品実装※2も実現。

※1 FPC (Flexible Printed Circuits) : 曲げることのできるプリント基板 ※2 部品実装 : 部品を組み込むこと

弊社の特徴と強み

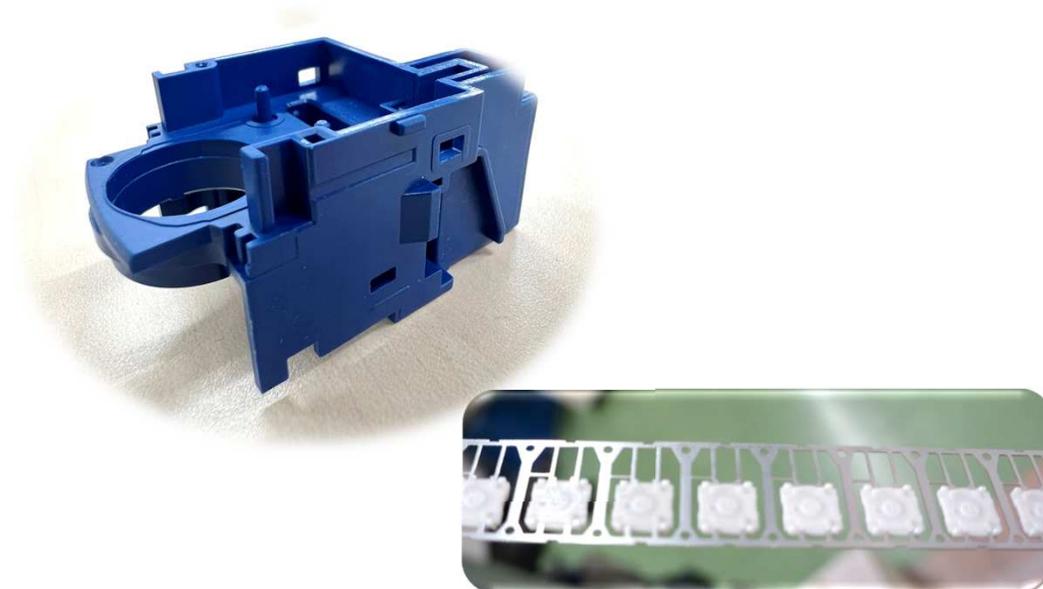
成型・プレス加工①

NOBLE

樹脂成型Injection molding・金属プレスPrecision Press



＜国内外に各種樹脂成型機を保有＞



＜金属端子と樹脂の一体成型＞

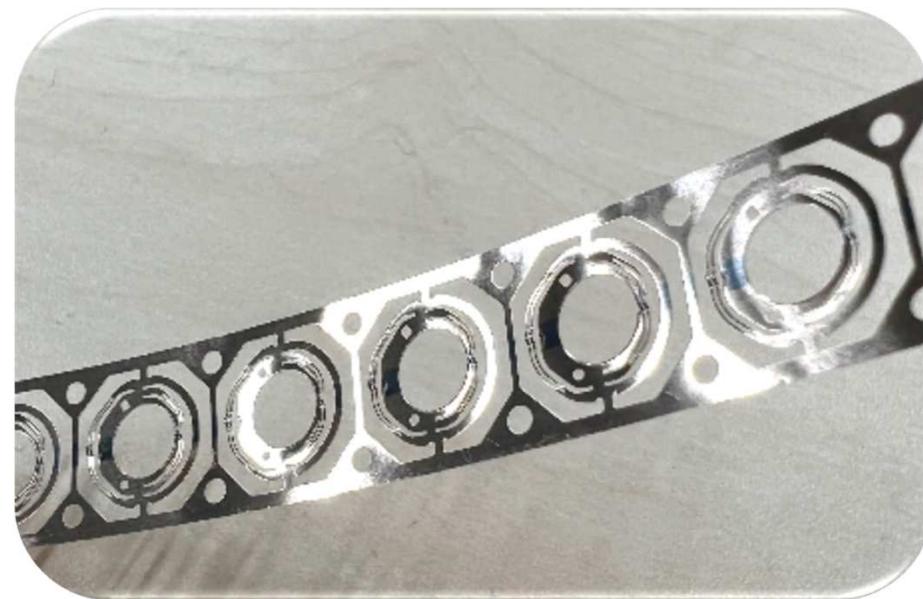
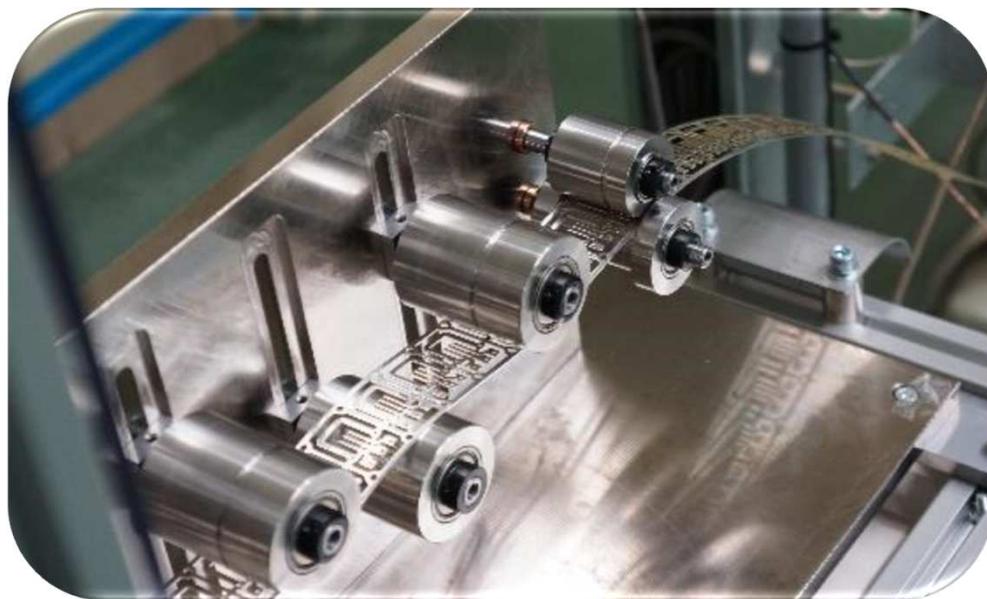
様々な市場に向けて材料の選定や金型設計を自社で行い、精密機構部品や大型外装部品の生産、成型部品への塗装・印刷も対応する。また弊社独自の技術としてFPCや端子を成型樹脂で一体化するインサート成型が高い評価をいただいている。

弊社の特徴と強み

成型・プレス加工②

NOBLE

Injection molding ・ Precision Press



プレス加工は高速で微細な加工が特徴。電子部品の心臓部となる金属接点は、自社で開発し様々なニーズに対応可能。高耐久製品には、このプレス加工技術が不可欠。国内外主要工場にプレス機を保有する。またこのプレスを組み立て工程のラインに組み込む技術も、弊社独自の生産方式。

弊社の特徴と強み

自動組立、品質保証

NOBLE

Automation assembly / inspection



日本国内外とも人手不足は私たち製造業にとっては大きな課題である。
弊社は常にお客さまに安定供給を行えるように、高い生産技術力で工程の自動化に取り組んでいる。



国内外の工場で、画像検査や電気チェッカーを導入し、高い品質を保証をする一方、認定検査員による、確かなジャッジがお客さまの信頼を得ている。

暮らしに身近な分野から
高い信頼性が求められる医療や自動車産業まで



コア技術を活かした2つのビジネス展開

ICB製品 (Integrated Control Block) »

カスタムブランド

前面操作ブロックとして生産するICB商品は、当社独自のカスタムブランドだ。NOBLE-FPCを中心とした集積回路モジュールは、各種マーケットからの独自要求に対応している。



自動車



AV機器



ゲーム・
ホビー機器



家電機器



医療・
ヘルスケア



事務機器・
産業機器

ディスクリート製品 »

汎用電子部品



可変抵抗器



センサ (抵抗式)



半固定抵抗器



エンコーダ



スイッチ



固定抵抗器



プラグ

可変抵抗式位置センサー

ヘッドライト角度調整

自動車



ドアミラー角度調整



エアコン温度調整



可変抵抗式位置センサー

カメラ交換用式レンズのズームや絞りの位置センサー

AV機器

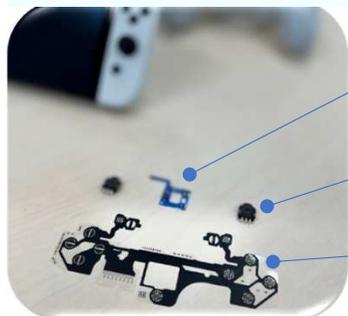


機構部品位置検出センサー

可変抵抗式位置センサー

NOBLE-FPC

ゲーム機器



スティック位置検出センサー

機構部品位置検出センサー

ボタン押し圧検出センサー

固定抵抗

家電



ヒーター抵抗

電流検出抵抗

突入防止抵抗

生体用电極

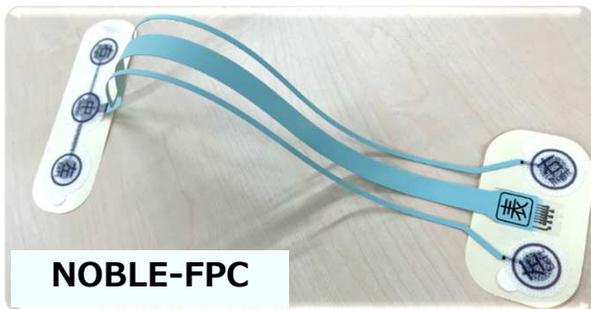
NOBLE-FPC



**筑波大学発スタートアップとの連携
スリープテックで社会貢献**
測定電極をフィルム化し従来よりも
簡便に睡眠障害を早期に発見。



脳波・心電・筋電の測定に活用されている。



NOBLE-FPC



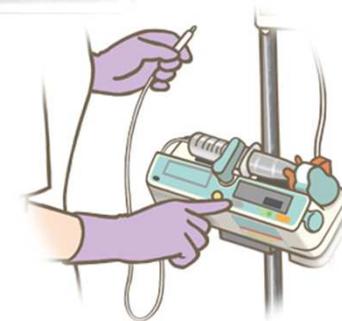
医療機器用 位置検出センサー

高い信頼性で医療機器にもご採用

ロングスライド型位置検出センサーxLSシリーズが好調。
医療機器のDX化に伴い、リアルタイムモニタリングに
高い位置検出精度を誇るセンサが活用されている。

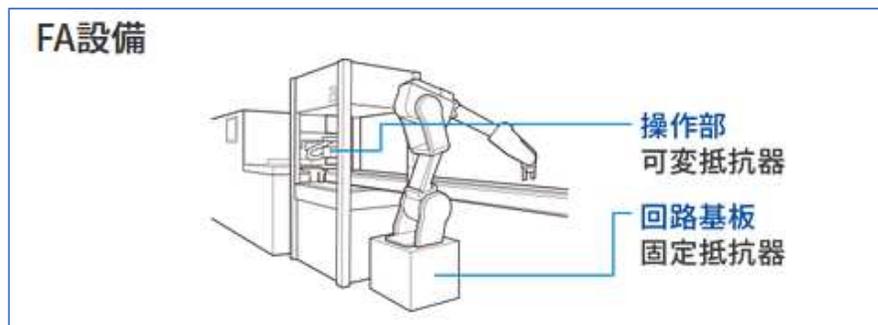


カスタム型・汎用型をラインナップ



(ご参考) 成長市場①②産業機器・ロボット

高耐久センサーシリーズ



(新商品)1,000万回耐久を実現

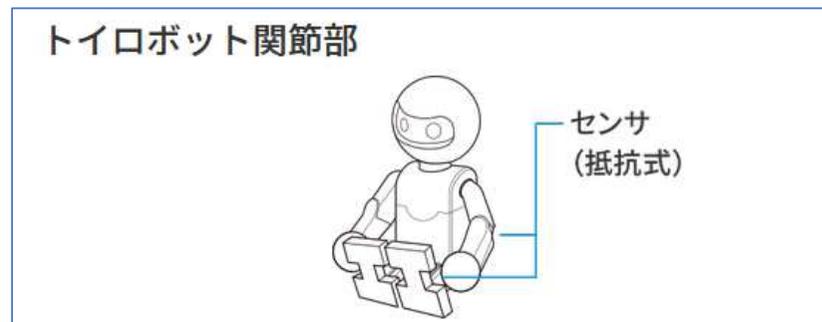
光学式
非接触エンコーダ



磁気式
非接触ロータリーセンサー

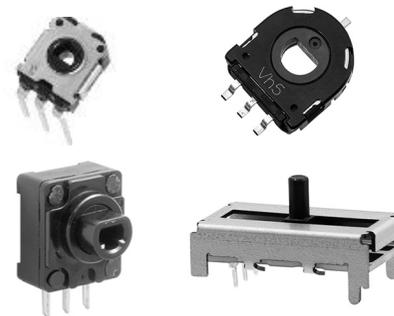


世界最小センサーシリーズ



市場の拡大に伴い受注拡大中

抵抗式
高精度ロータリーセンサー等

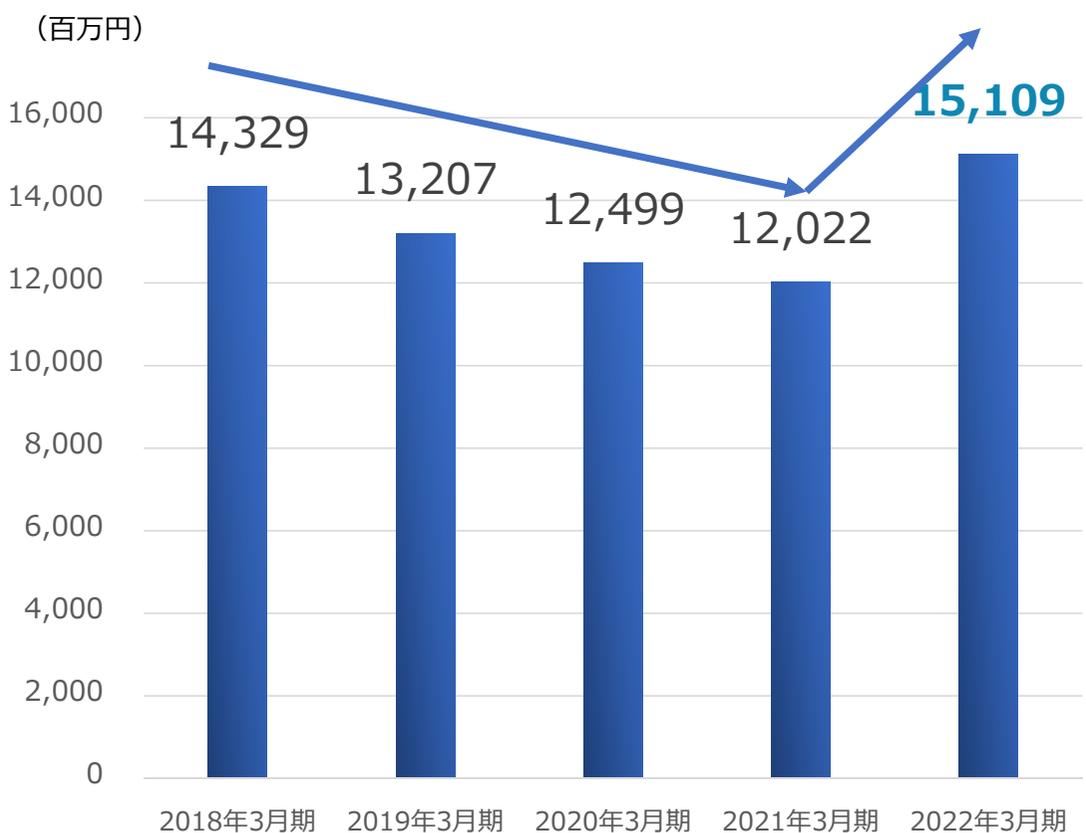


● 2022年3月期決算概要

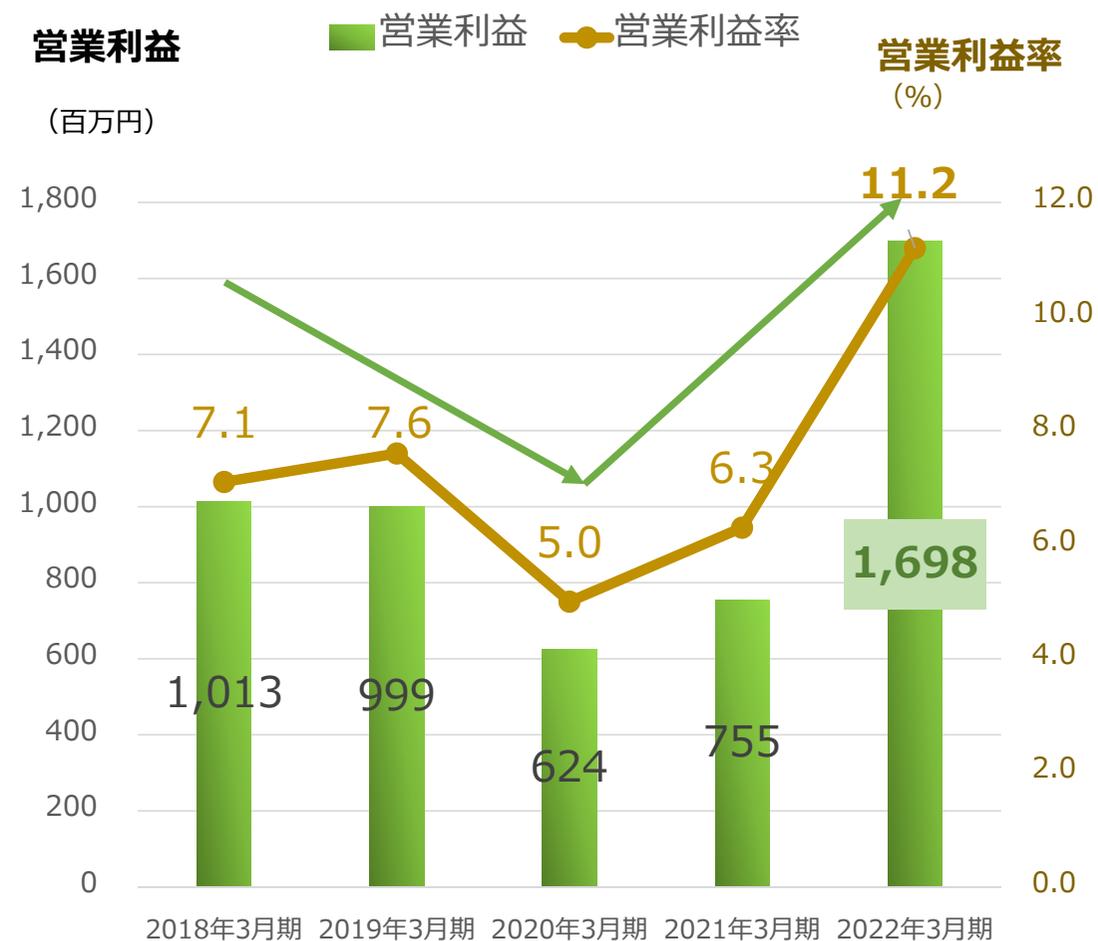
- ▶ 連結売上高、連結営業利益の推移
- ▶ 連結売上高と連結売上総利益の推移（四半期ベース）
- ▶ 連結売上総利益と連結営業利益の推移（四半期ベース）
- ▶ 連結売上高の内訳（製品別）
- ▶ 連結売上高の内訳（市場別）
- ▶ 電子部品事業の地域別内訳

連結売上高、連結営業利益の推移

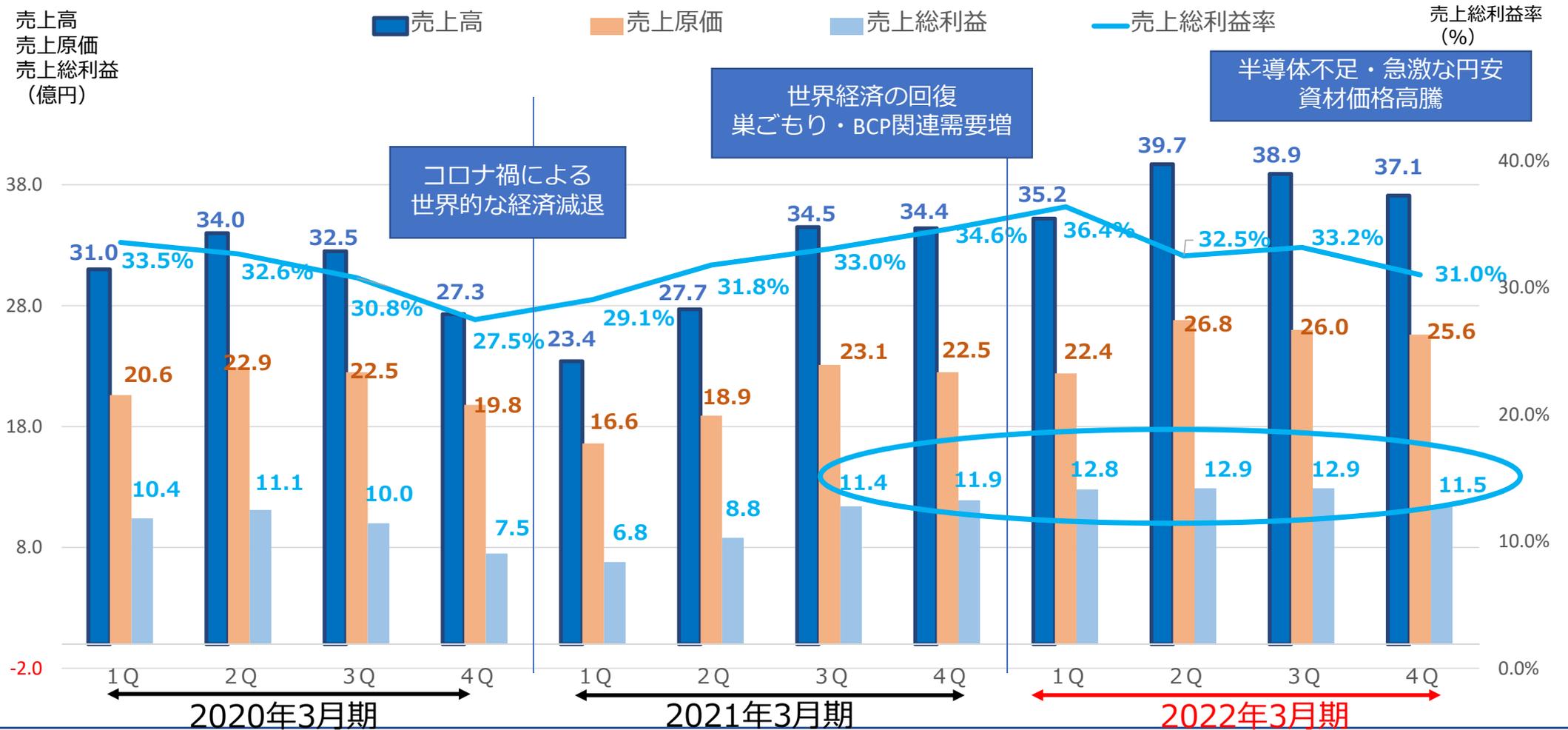
売上高



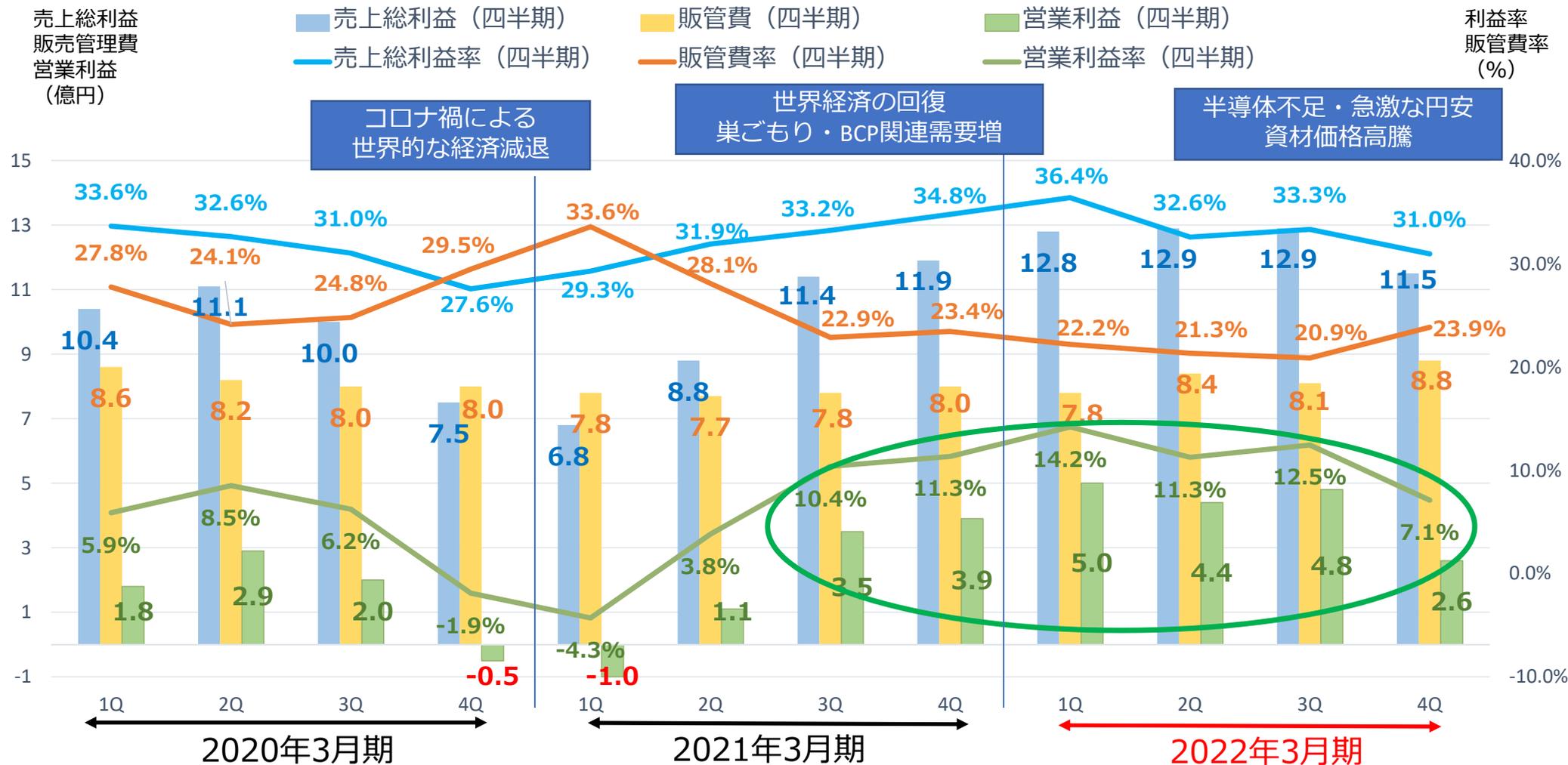
営業利益



連結売上高と連結売上総利益の推移 (四半期ベース)



連結売上総利益と連結営業利益の推移 (四半期ベース)



連結売上高の内訳 (製品別)

2020年3月期



2021年3月期



2022年3月期

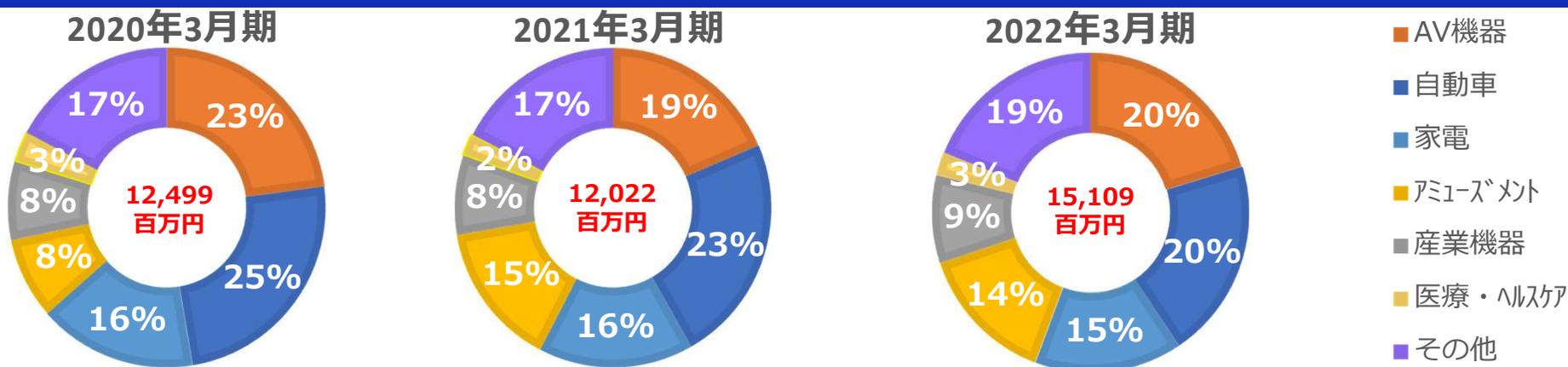


- 電子部品事業・前面操作ブロック
 - 電子部品事業・可変抵抗器
 - 電子部品事業・固定抵抗器
 - 電子部品事業・センサー
 - 電子部品事業・機構部品
 - 電子部品事業・その他の電子部品
 - その他事業
- ※

※「電子部品」の製品別区分の内、その他の比率が高くなってきていることから、今期よりセンサー、機構部品、その他の電子部品に細分化いたしました。

(単位：百万円)		①2020/3	②2021/3	③2022/3	①と②比較		②と③比較		①と③比較	
電子部品事業	前面操作ブロック	4,249	3,486	4,116	△763	82.0%	629	118.1%	△133	96.8%
	可変抵抗器	2,045	1,952	2,507	△93	95.4%	555	128.4%	462	122.5%
	固定抵抗器	1,913	1,791	2,136	△122	93.6%	345	119.3%	223	111.6%
	センサー	1,629	2,196	3,021	567	134.8%	825	137.6%	1,392	185.4%
	※ 機構部品	1,024	1,223	1,882	199	119.4%	658	153.8%	858	183.7%
	その他の電子部品	1,007	860	891	△147	85.4%	31	103.6%	△116	88.4%
	小計	11,870	11,510	14,555	△360	96.9%	3,045	126.5%	2,685	122.6%
その他事業		628	511	553	△117	81.3%	41	108.1%	△75	88.0%
連結売上高		12,499	12,022	15,109	△477	96.1%	3,087	125.6%	2,610	120.8%
連結売上総利益		3,920	3,919	5,026	△1	99.9%	1,107	128.2%	1,106	128.2%
連結営業利益		624	755	1,698	131	120.9%	943	224.9%	1,074	272.1%

連結売上高の内訳 (市場別)



(単位：百万円)	①	②	③	①と②比較		②と③比較		①と③比較	
	2020/3	2021/3	2022/3						
AV機器	2,860	2,236	3,073	△624	78.1%	837	137.4%	213	107.4
自動車	3,058	2,784	3,060	△274	91.0%	276	109.9%	2	100.0
家電	2,018	1,905	2,281	△113	94.4%	376	119.7%	263	113.0
アミューズメント	1,028	1,759	2,141	731	171.1%	382	121.7%	1,113	208.2
産業機械	1,001	981	1,346	△20	98.0%	365	137.2%	345	134.4
医療・ヘルスケア	380	259	358	△121	68.1%	99	138.2%	△2	94.2
その他	2,154	2,095	2,847	△59	97.2%	752	135.8%	693	132.1
連結売上高	12,499	12,022	15,109	△477	96.1%	3,087	125.6%	2,610	120.8
連結売上総利益	3,920	3,919	5,026	△1	99.9%	1,107	128.2%	1,106	128.2
連結営業利益	624	755	1,698	131	120.9%	943	224.9%	1,074	272.1

(百万円)		①2020/3	②2021/3	③2022/3	①と②比較		②と③比較		②と③比較	
日本	売上	5,957	6,218	7,321	261	104.3%	1,102	117.7%	1,364	122.8%
	セグメント利益	169	361	897	192	213.6%	536	248.5%	728	530.7%
アジア	売上	5,700	5,079	6,931	△621	121.5%	1,851	136.5%	1,231	121.5%
	セグメント利益	380	346	793	△34	91.0%	446	228.8%	413	208.6%
北米	売上	213	212	302	△1	99.5%	90	142.8%	89	141.7%
	セグメント利益	△4	△0	27	4	—	28	—	31	—
調整額	セグメント利益	7	△1	△48	8	—	△46	—	△57	—
電子部品合計	売上	11,870	11,510	14,555	△360	96.9%	3,045	126.5%	2,685	122.6%
	セグメント利益	552	705	1,670	153	127.7%	964	236.7%	1,118	302.5%
海外売上高比率		49.8%	45.9%	49.6%	—	△3.9%	—	+3.7%	—	△0.2

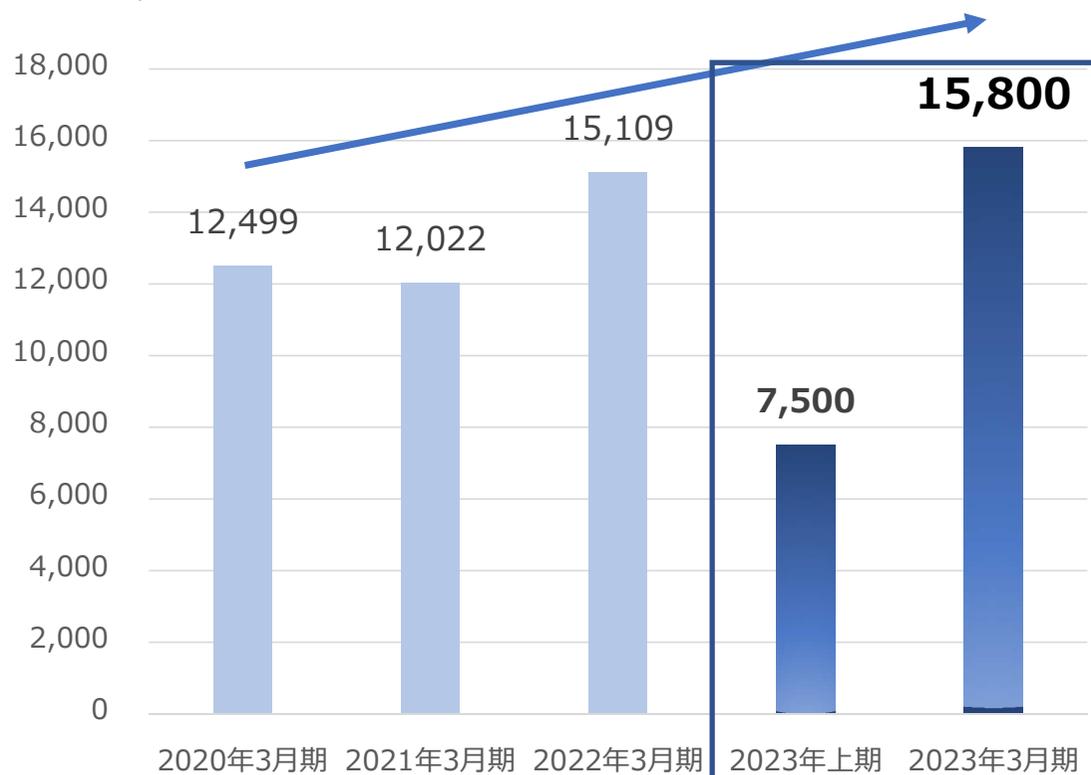
● 2023年3月期 業績予想

- ▶ 連結売上高、連結営業利益予想
- ▶ 連結売上高の内訳予想
- ▶ 過去業績トレンドと中期経営計画の位置づけ
- ▶ 設備投資、減価償却費、研究開発費、出資
- ▶ プライム市場区分適合状況

連結売上高、連結営業利益予想

売上高

(百万円)



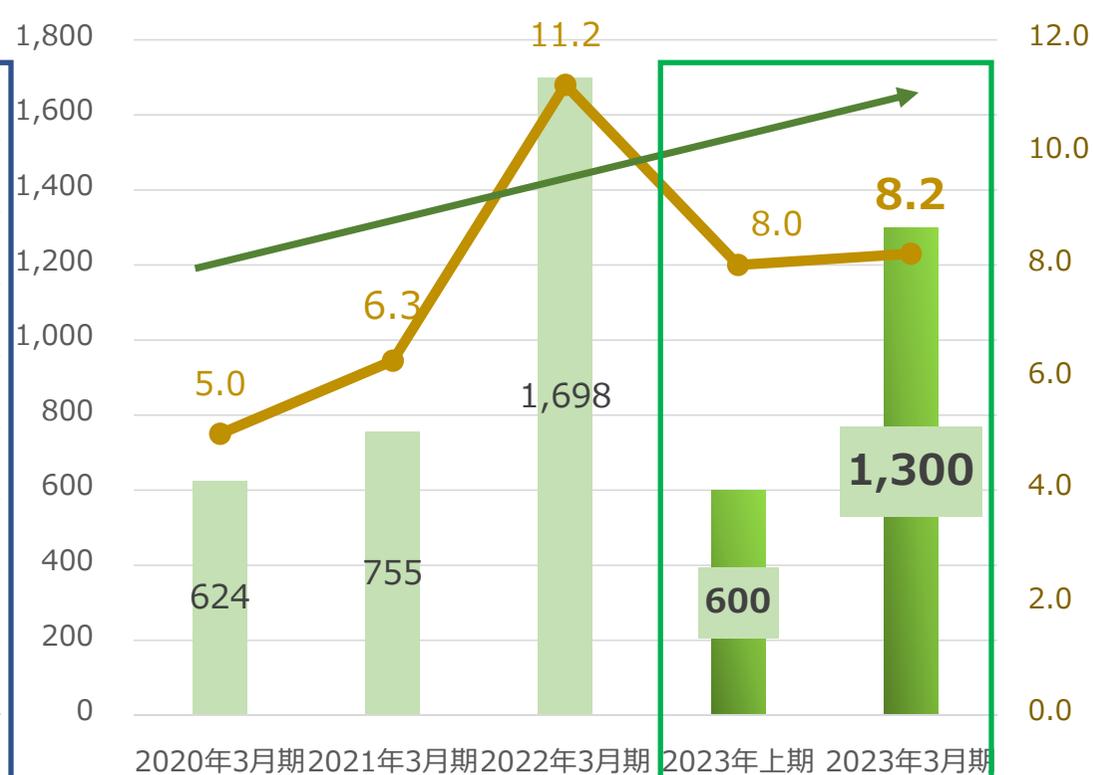
営業利益

(百万円)

■ 営業利益 ● 営業利益率

営業利益率

(%)



連結売上高の内訳予想

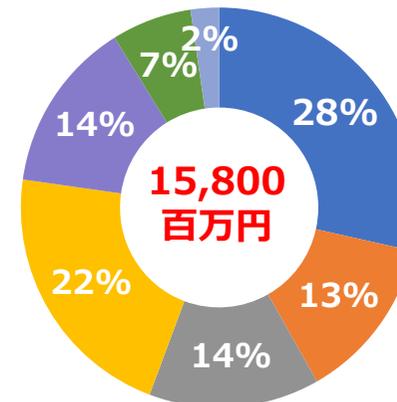
2022年3月期



製品別売上高

- 電子部品事業・前面操作ブロック
- 電子部品事業・可変抵抗器
- 電子部品事業・固定抵抗器
- 電子部品事業・センサー
- 電子部品事業・機構部品
- 電子部品事業・その他の電子部品
- その他事業

2023年3月期予想



2022年3月期



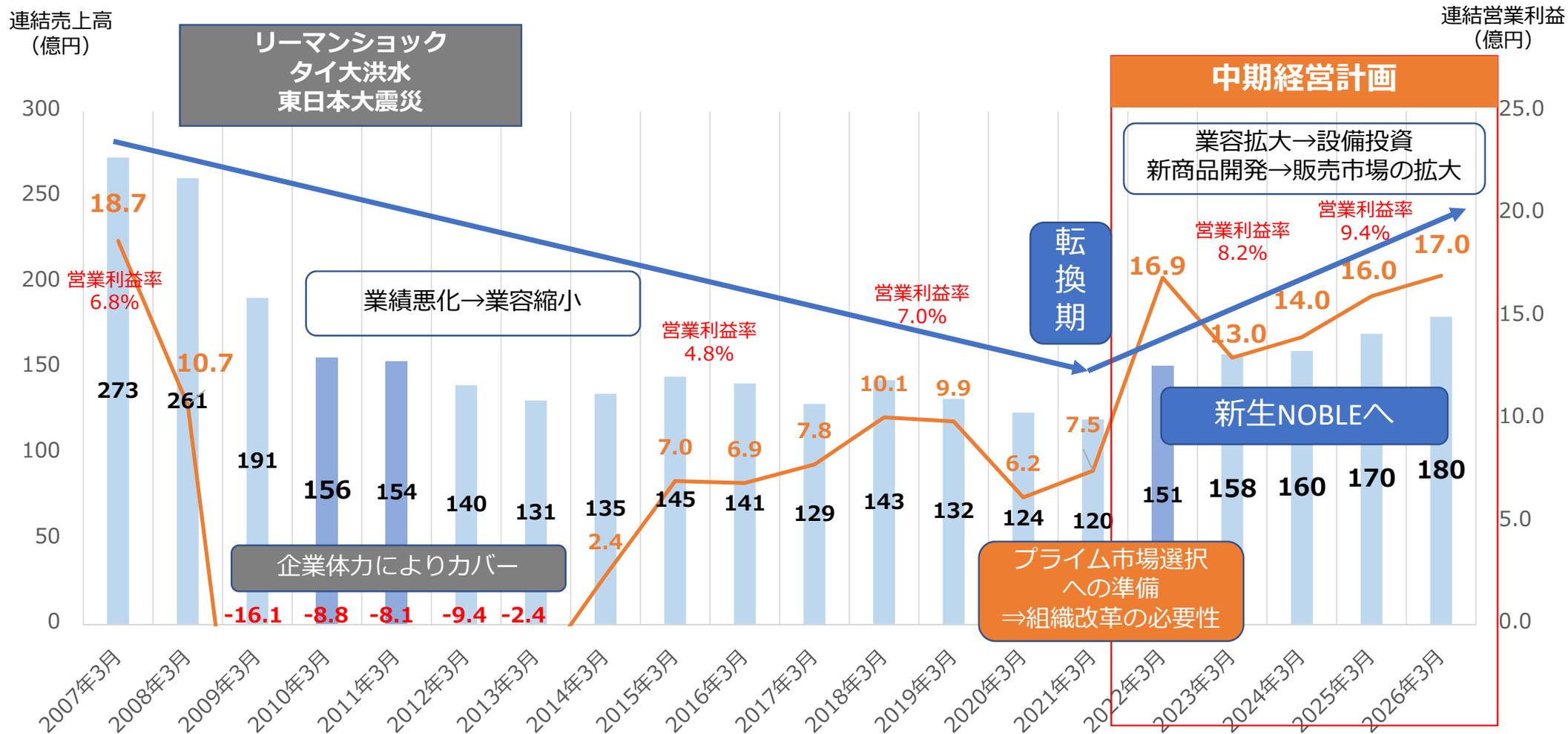
市場別売上高

- AV機器
- 自動車
- 家電
- アミューズメント
- 産業機器
- 医療・ヘルスケア
- その他

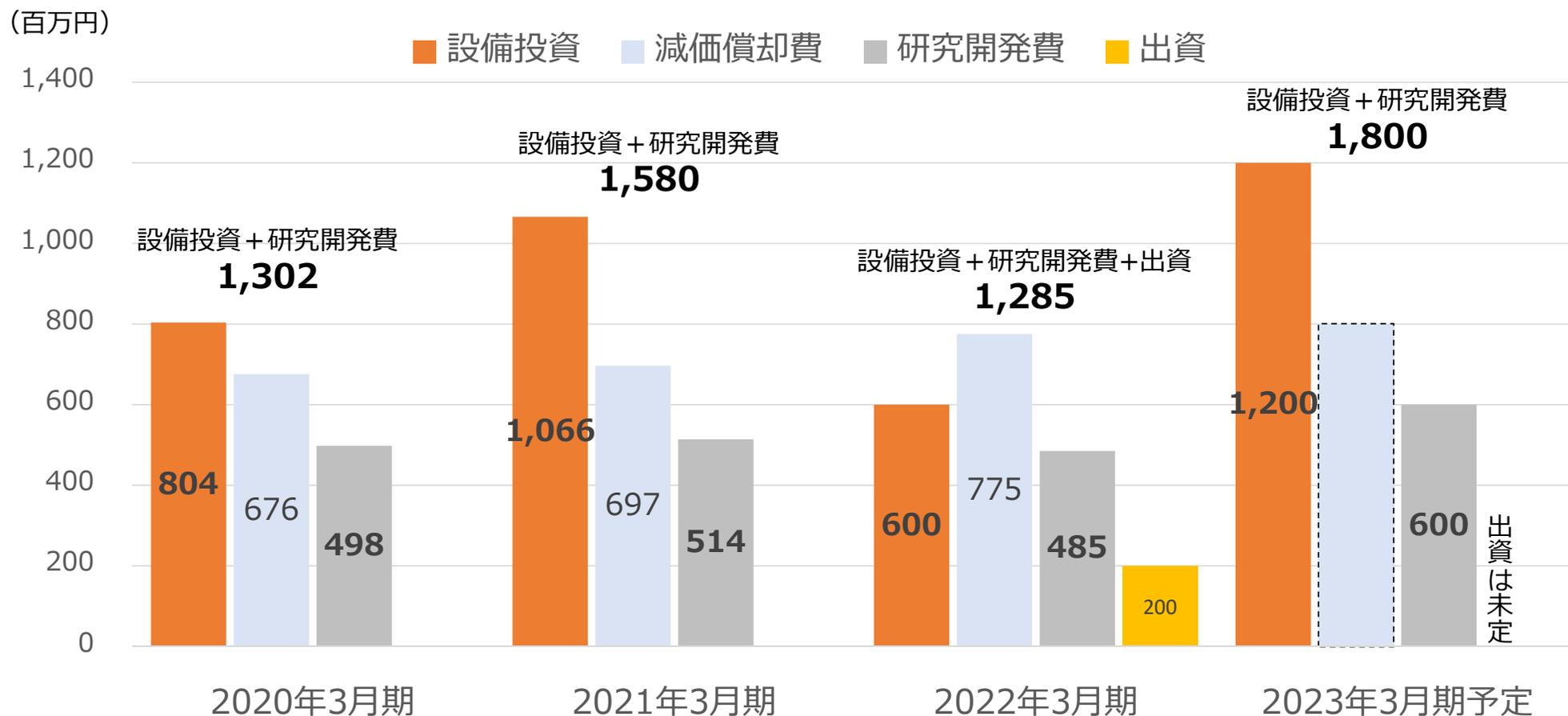
2023年3月期予想



過去業績トレンドと中期経営計画の位置づけ



設備投資、減価償却費、研究開発費、出資



プライム市場区分適合状況



項目	プライム市場 上場維持基準	経過措置	一次判定値 (2021/7/9)	一次 判定	2022/3/31時点 (自社算定)	任意 判定
(1)株主数	800名以上	800名以上	4,537人	適合	4,394人	適合
(2)流通株式数	20,000単位以上	10,000単位以上	79,777単位	適合	78,254単位	適合
(3)流通株式時価総額	100億円以上	10億円以上	90億円	不適合	(22/1~3平均) 107億円	適合
(4)流通株式比率	35%以上	5%以上	78%	適合	77(%)	適合
(5)売買代金	1日平均売買代金 0.2億円	月平均売買高 40単位以上(6か月)	8,210千円	不適合	(年平均) 20,380千円 (22/1~3平均) 22,349千円	適合

中期経営計画（修正版）

● 経営方針

- 企業理念・長期ビジョン・行動指針
- 目指すべき姿（長期ビジョン）
- 経営方針と中期経営計画の位置づけ
- 基本戦略（成長領域）

● 中期経営計画（修正版） **2021年度実績を踏まえた一部修正計画※**

- 事業実績・修正計画目標①～③
- 主な投資実績・計画①～②
- 資本政策（利益還元方針）
- 主な経営指標の実績推移・計画

※中期経営計画：2021年5月--初版
2022年5月11日--修正

企業理念・長期ビジョン・行動指針

NOBLE

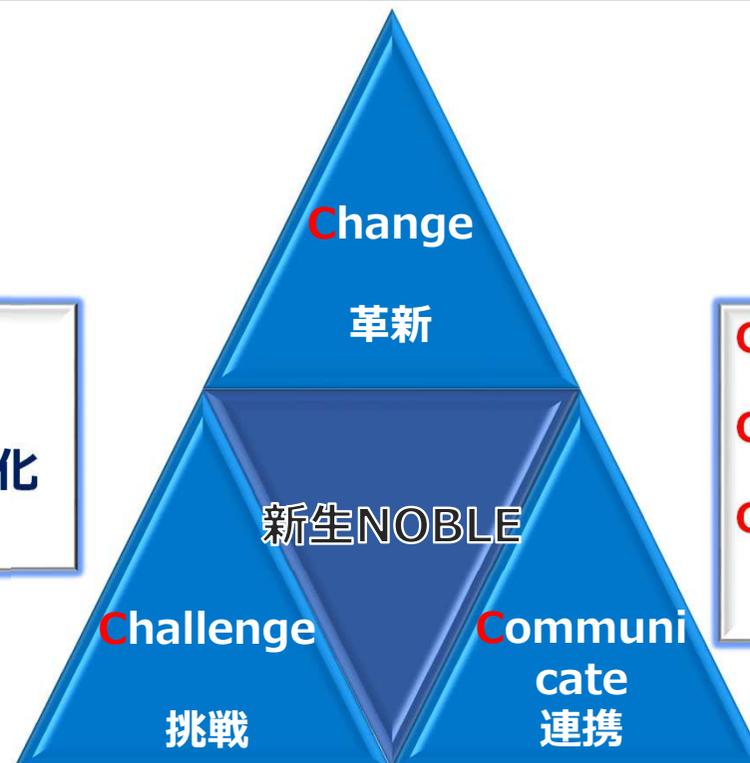
企業理念

帝通は電子部品の製造とサービスを通して
世界のお客様に満足して頂ける仕事をいつも提供し続けることにより
豊かな社会の実現に貢献します。

長期ビジョン

抵抗器のNOBLEから
「新生NOBLE」への**深化と進化**

行動指針 (三つのC)



- C : Change**
「NOBLE」は未来に向かって**革新**します
- C : Challenge**
「NOBLE」は失敗を恐れず**挑戦**します
- C : Communicate**
「NOBLE」はお取引様やグループ内の**連携**強化を図ります

目指すべき姿（長期ビジョン）

NOBLE

長期ビジョン

抵抗器のNOBLEから「新生NOBLE」への**深化と進化**

取引先様からの評価

高い品質とニーズを捉えた製品開発力と提案力、少量多品種への対応力を駆使した、自社にとってなくてはならない企業

市場・消費者からの評価

生活に必要不可欠な電化製品には必ず組み込まれている縁の下の力持ち

株主様からの評価

SDGsや非接触等の時代に合わせた取組で常に変革していく、成長性の高い企業



従業員からの評価

コア技術を発展させて、世界を舞台にチャレンジすることのできる企業

経営方針と中期経営計画の位置づけ

長期ビジョン

抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

基本戦略

既存領域の拡大
顧客ニーズを捉えた新製品展開
新領域の確立

中期経営計画

今期 中期経営計画（2021～2025年度）

既存領域の拡大・新領域の模索

- ◆ コア技術の活用による新製品開発
 - チップ抵抗・非接触スイッチ等の開発
- ◆ 新技術領域の構築
 - ソフト・回路・微細加工領域の構築
- ◆ 販売力、マーケット拡販の強化
 - 新規営業・提案型営業の強化
- ◆ 品質の向上
 - 求められる品質基準への対応
- ◆ 生産性の向上・付加価値の向上

次期 中期経営計画（暫定）

新領域の確立

- ◆ 今期中計の取組の強化と、収益力の向上
 - 注力業界の動向を捉えた取組の強化
 - 現在の固定・可変抵抗器以外の製品・技術の確立
- ◆ 新業界への挑戦（公共・通信等）
- ◆ グローバル拠点の連携強化・拡大
- ◆ 生産性の向上・付加価値の向上

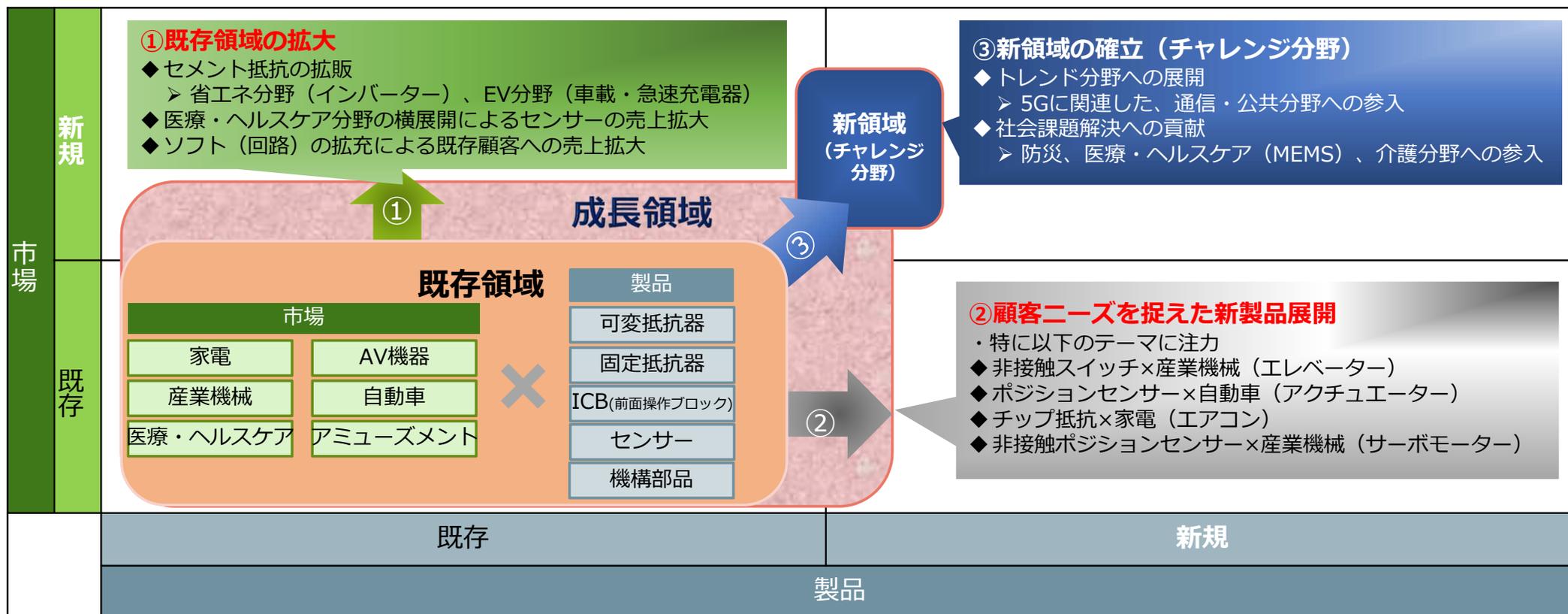
組織力の強化

- ◆ 次世代へのグローバルな人材開発と育成、新卒・中途社員の積極採用
- ◆ コア技術・製造技術の技術承継
- ◆ 本社・工場への設備投資（BCP・ESGへの取組）

基本戦略（成長領域）

基本戦略

- ① **既存領域の拡大**：既存業界への製品の横展開を目指す（医療機器等）
- ② **顧客ニーズを捉えた新製品展開**：顧客業界のニーズ・トレンド（非接触・EV等）を捉えた新製品開発を行う
- ③ **新領域の確立（チャレンジ分野）**：トレンドや環境の変化に合わせた新製品開発により新規市場への展開を図る



事業実績・修正計画目標① (ステップ毎の目標)



修正中計
経営目標①

中期計画を3段階に分け、段階毎の売上高・営業利益の目標値を再設定

- 中計第2ステップ最終年度 **2023年度売上高:160億円** (修正+7億円) ・ **営業利益:14億円** (修正+2億円)
- 中計第3ステップ最終年度 **2025年度売上高:180億円** (修正±0億円) ・ **営業利益:17億円** (修正+2億円)

中計第1ステップ
2021年度

初年度計画

実績

売上高

132億円



151億円

営業利益
(営業利益率)

9.0億円
(6.8%)



16.9億円
(11.2%)

既存領域の拡大

中計第2ステップ
2022~2023年度

2023年度当初計画

2023年度修正計画

153億円



160億円

12.0億円
(7.8%)



14.0億円
(8.8%)

新領域等への投資

中計第3ステップ
2024~2025年度

2025年度当初計画

2025年度修正計画

180億円



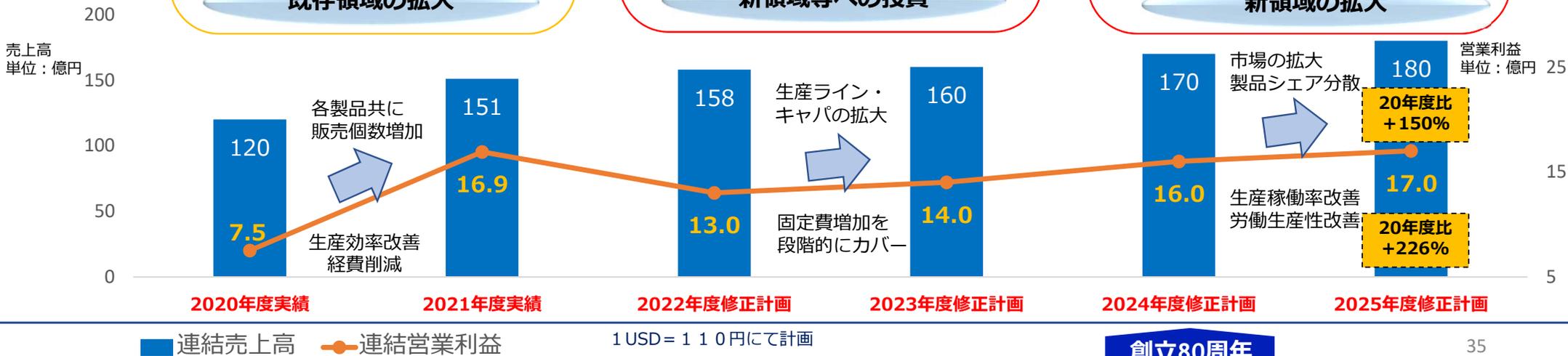
180億円

15.0億円
(8.3%)



17.0億円
(9.4%)

新領域の拡大



創立80周年

事業実績・修正計画目標② (セグメント別売上高)

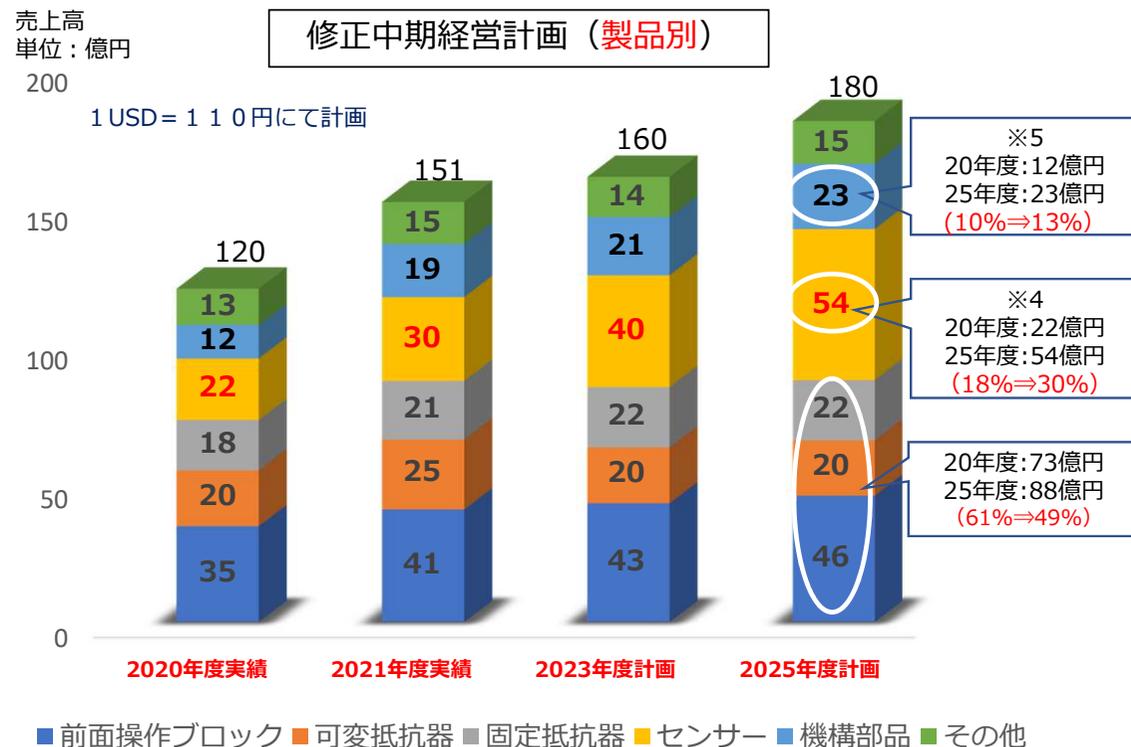
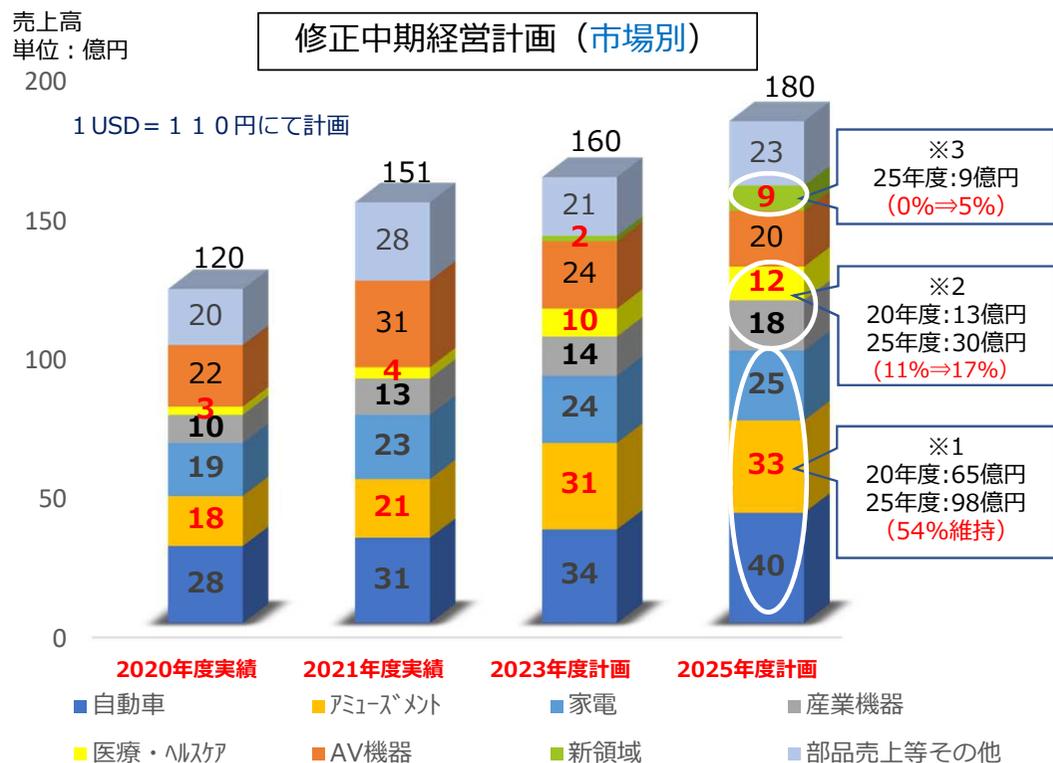


● 2025年度までの「市場別」目標

- 自動車、家電、アミューズメント：連結売上高の54%を維持 ※1
- 産業機器、医療・ヘルスケア：連結売上高の17%まで拡大※2
- 新領域：連結売上高の5%を達成 ※3

● 2025年度までの「製品別」目標

- センサー：主力商品化（増収基盤の柱） ※4
- 機構部品：外注取込みにより、連結売上高の13%まで拡大 ※5
⇒主力「抵抗器シリーズ」からの分散化



事業実績・修正計画目標③ (セグメント別収益計画)

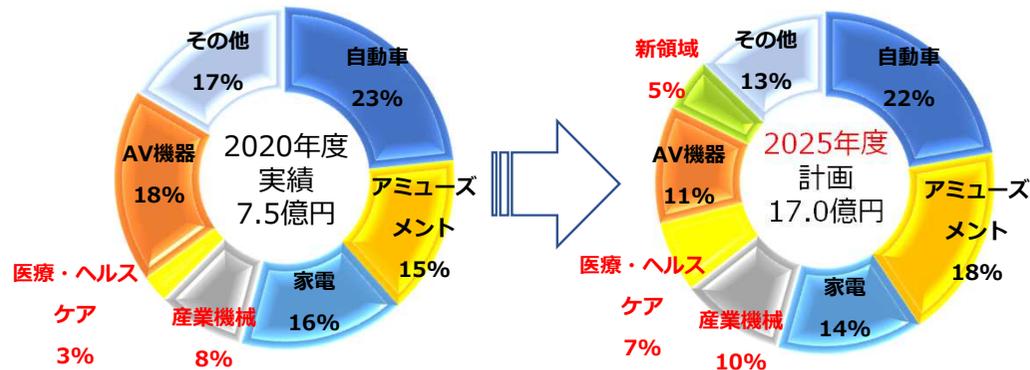
- 2025年度までの「市場別」目標
 - 自動車、アミューズメント：主力収益基盤としての位置づけ維持
 - 産業機器、医療・ヘルスケア：増収を背景とした収益強化
⇒収益基盤の分散化

- 2025年度までの「製品別」目標
 - センサー：増収を背景とした収益強化
 - 機構部品：増収を背景とした収益強化
⇒主力「抵抗器シリーズ」から「センサー」への移行

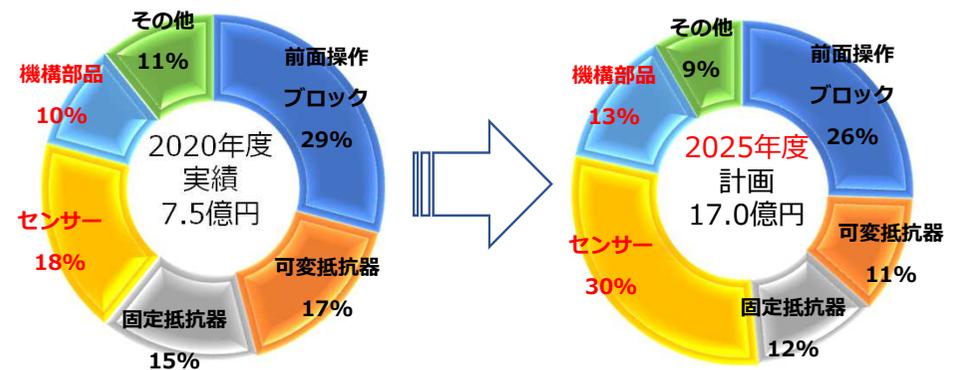
- 収益変動要因1：為替相場
 - ・国内外の生産・販売拠点・取り扱い通貨分散により影響を極小化
⇒2021年度の円安影響は営業利益で+2億円程度
(営業利益16.9億円の11.8%相当)
 - ただし、過度な円安は資材高騰要因としてマイナス作用

- 収益変動要因2：資材高騰
 - ・販売及び生産単価の定期的な検証により、価格見直し交渉を実施
⇒2022年度は順次見直しにより反映予定
- 収益変動要因3：人員関係費や減価償却費等のコスト増
 - ・自動化・省人化・生産稼働率改善+働き方改革でカバー

市場別営業利益



製品別営業利益



主な投資実績・計画① (設備・研究開発費・出資等)



修正中計
投資実績・計画
(設備・研究開発
費・出資等)

- 中計第2ステップ：設備投資＋研究開発費で**18億円/年程度**を計画⇒増産、新商品開発に注力
- 中計第3ステップ：BCP・ESGを念頭においた**工場増設等の追加投資**を軸に展開
同時並行で資産の有効活用を踏まえ、人財育成・研究開発力の向上に資する
新本社の建替えも検討
- 中計全般：出資・M&A等は随時検討し、主に**新領域の拡大に繋がる投資**を模索

投資実績・計画 (単位：億円)	過去実績		中計 第1ステップ	中計 第2ステップ		中計 第3ステップ	
	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 計画	2023年度 計画	2024年度 計画	2025年度 計画
1. 設備投資 (売上高設備投資率%)	8.0 (6.4%)	10.6 (8.8%)	6.0 (3.9%)	12.0 (7.6%)	・2023年度は営業CFをベースに2022年度 程度の投資を想定 ・BCPやESGを念頭においた工場増設や 機械設備の更新、新本社建替等を検討 ⇒SDGs・TCFDへの取組と連動		
2. 研究開発費 (売上高研究開発費率%)	4.9 (3.9%)	5.1 (4.2%)	4.8 (3.2%)	6.0 (3.8%)			
3. 出資・M&A等	-	-	2.0	随時検討		随時検討	
合計	12.9	15.7	12.8	18.0			
(営業CF)	11.9	4.0	17.8	15.0	16.0	17.0	18.0

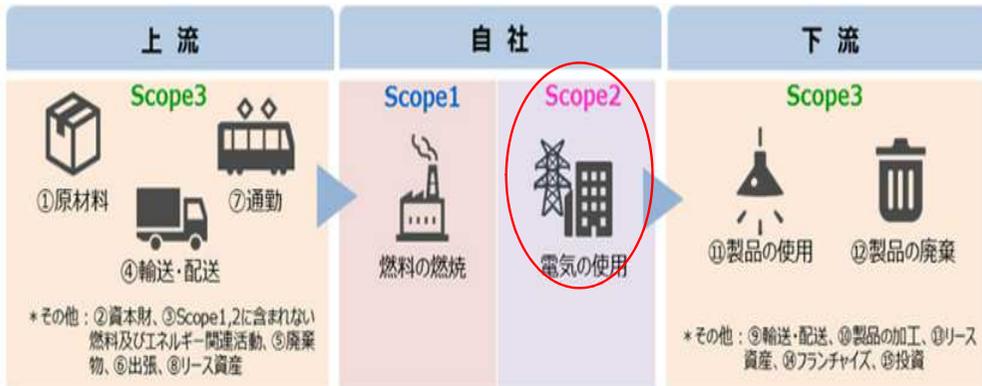
修正中計
投資実績・計画
(TCFD対応)

サプライチェーン排出量への対応状況 (Scope2※1) : **2022年度目標「2020年度比▲15%」**

- ・ 本社にて水力発電由来のグリーン電力の導入を開始
⇒ 本社が排出するCO2 (Scope2、電力由来) の約30%の削減に相当
- ・ 当社赤穂工場にてCO2フリー電気の導入を開始
⇒ 同事業所が排出するCO2 (Scope2、電力由来) の50%の削減に相当

※1 Scope1及びScope3への対応も含めた計画については現在検討中

Scope2におけるサプライチェーン排出量の削減



Scope 1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope 2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope 3 : Scope1、Scope2以外の間接排出
(事業者の活動に関連する他社の排出)

グループ全体のScope2におけるサプライチェーン排出量への削減目標



2023年以降の設備投資計画と併せ、具体的な削減計画・メド値を随時策定

修正中計
資本政策

- 中期経営計画期間中の1株あたりの配当金を**下限60円**とする
- 創立80周年（2024年度）には**記念配当**を検討

● 第1ステップ（2021年度）

- 配当政策：営業CF17.8億円を計上し、1株あたりの配当金を60円に引き上げ
- 政策投資株式の縮減：2社の政策投資株式を縮減

● 第2・3ステップ（2022年度～2025年度）

- 配当政策：営業CF15億円程度を維持し、当該中長計期間の1株あたりの配当金を下限60円とする
- 政策投資株式の縮減の継続や、自己株式の消却を検討

● 創立80周年（2024年度）

- 記念配当を検討中

主な経営指標の実績推移・計画

修正中計
経営目標②

「営業収益・営業CF改善」⇒「適切な投資と株主への安定的な利益還元」⇒「社員への還元と自己資本の蓄積」の好循環により企業価値を高める

- 中計第2ステップ最終年度目標 **営業CF：16億円・ROE：4.7%・ROIC：4.2%**
- 中期第3ステップ最終年度目標 **営業CF：18億円・ROE：5.5%・ROIC：4.7%**

連結ベース	過年度			中計第1ステップ	4期平均	中計第2ステップ最終年度	中計第3ステップ最終年度
	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績		2023年度計画	2025年度計画
営業利益(億円)	9.9	6.2	7.5	16.9	10.1	14.0	17.0
営業CF(億円)	21.1	11.9	4.0	17.8	13.7	16.0	18.0
株主資本(億円)	204.9	201.8	205.5	215.6	-	230.0	246.0
配当金(円)	50	50	40	60	50	60以上	60以上
ROE(%)	4.4	▲0.4	3.5	6.8	3.5	4.7	5.5
ROIC(%) ※1	3.3	2.1	2.5	5.4	3.3	4.2	4.7
法定実効税率(%)	30.5	30.5	30.6	30.62	-	30.62	30.62
DOE(%) ※2	2.3	2.4	1.9	2.2	2.2	2.1程度	2.0程度
配当性向(%)	51.5	-	52.1	37.1	46.9 (3期平均)	47.0程度	37.0程度

平均値
底上げ

※1 ROIC(%) : 投下資本利益率 = 営業利益 × (1 - 実効税率) / (株主資本 + 有利子負債) × 100

※2 DOE(%) : 株主資本配当率 = 配当金支払額 / 株主資本 × 100



今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

帝国通信工業株式会社 代表取締役社長 羽生 満寿夫

補足資料

補足資料①

財務データ

- ▶ 各種指標
- ▶ 連結貸借対照表
- ▶ 連結キャッシュフロー

	2018/3/31	2019/3/31	2020/3/31	2021/3/31	2022/3/31
売上高(百万円)	14,329	13,208	12,500	12,022	15,109
営業利益(百万円)	1,013	1,000	624	755	1,698
EBITDA(百万円)	1,716	1,632	1,301	1,452	2,474
純利益(百万円)	780	953	-84	755	1,584
総資産(百万円)	26,454	25,505	24,576	27,270	29,087
純資産(百万円)	22,134	21,664	21,202	23,063	24,348
ROA(%)	3.0	3.7	-0.3	2.9	5.6
ROE(%)	3.7	4.4	-0.4	3.5	6.8
PER(倍)	16.2	12.5	-138.8	14.3	8.9
PBR(倍)	0.58	0.56	0.56	0.48	0.59
EPS(円)	79.44	97.06	-8.55	76.74	161.83
BPS(円)	2,209	2,157	2,111	2,297	2,433
一株当たり配当金(円)	50	50	50	40	60
配当利回り(%)	3.9	4.1	4.2	3.6	4.2
配当性向(%)	62.9	51.5	-584.5	52.1	37.1

連結貸借対照表

(百万円)

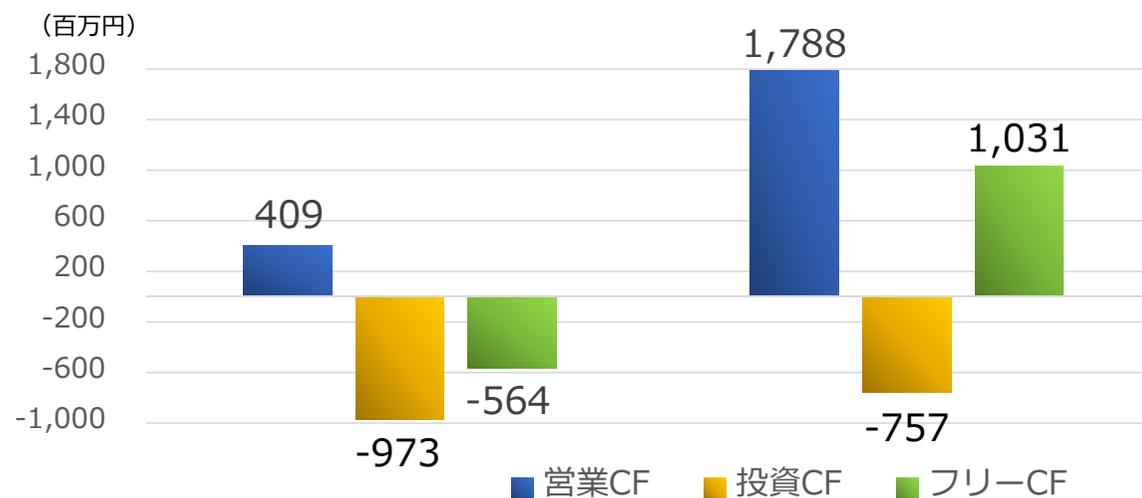
		2021年3月期	2022年3月期	増減
資産	流動資産	15,846	17,811	1,965
	固定資産	11,423	11,275	△147
	資産 合計	27,270	29,087	1,817
負債	流動負債	2,360	2,892	532
	固定負債	1,846	1,846	0
	負債 合計	4,206	4,739	532
純資産 合計		23,063	24,348	1,285
負債純資産 合計		27,270	29,087	1,817

▶ 流動資産：現預金（739百万円）、商品及び製品（400百万円）の増加等

連結キャッシュ・フロー

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	409	1,788
投資活動によるキャッシュ・フロー	△973	△757
フリーキャッシュ・フロー	△564	1,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	△467	△648
現金及び現金同等物の期首残高	7,888	6,842
現金及び現金同等物の期末残高	6,842	7,510

- 営業活動：税金等調整前当期純利益（2,032百万円）
- 投資活動：有形固定資産の取得（592百万円）等
- 財務活動：配当金の支払い（492百万円）等



当社グループ概要

- ▶ 沿革と業績推移
- ▶ 国内・海外拠点の展開地域

沿革と業績推移

2022年8月 創立78年

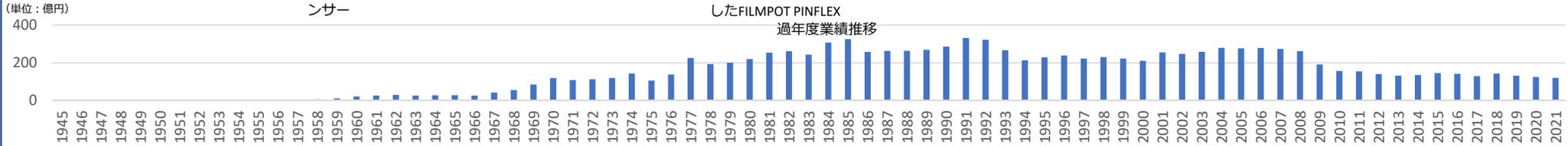
NOBLE

- ・1944年8月、無線通信機部品の専門メーカーとして、東京芝浦電気株式会社(現株式会社東芝)、日本電気株式会社、日本無線株式会社ほか2社の共同出資により**帝国通信工業株式会社設立**
- ・帝国通信工業株式会社赤穂工場開設
- ・飯田帝通設立
- ・東京証券取引所2部上場
- ・現頃坂帝通に資本参加
- ・台湾富貴電子設立
- ・福井帝通設立
- ・大阪証券取引所2部上場
- ・東京・大阪両証券取引所1部に指定替え
- ・木曾精機設立
- ・帝通エンヂニヤリング設立
- ・シンガポールノーブル設立
- ・ノーブルUSA設立
- ・香港富貴電子設立
- ・現ノーブルエレクトロニクスタイランド設立
- ・ミノワノーブル設立
- ・ノーブルプレジジョンタイランド設立
- ・ノーブル貿易(上海)設立
- ・ノーブルエレクトロニクスベトナム設立
- ・ノーブルトレーディング(バンコク)
- ・富貴(淮安)電子設立
- ・ノーブルエレクトロニクスタイランドを存続会社としてノーブルエレクトロニクスタイランドとノーブルプレジジョンタイランドを統合・福井帝通とミノワノーブル合併
- ・旧ミノワノーブル敷地に福井帝通ミノワ工場開設

1940・1950・・・・・1960・・・・・1970・・・・・1980・・・・・1990・・・・・2000・・・・・2010・・・・・2020・・・・

- ・終戦後の混乱期(1940年代)
 - ・マイカコンデンサー、密閉型紙コンデンサー等のコンデンサー類の生産
 - ・巻線抵抗、小型可変抵抗器、
 - ・低周波変圧器、マイクロフォンなどの電子部品
 - ・スピーカー、
 - ・リボン型可変抵抗器
 - ・5級スーパーラジオ、**方向指示器** クラクシオン可変抵抗器
 - ・30・35型等可変抵抗器 TR25型、WR35型、WR25型16型可変抵抗器、24型可変抵抗器
 - ・スィープモーター
 - ・スピーカー
 - ・ロータリースイッチ SR25、SR32、SL13
- ・高度成長期(1960年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・電圧型巻線可変抵抗器
 - ・金属皮膜可変抵抗器TF20N
 - ・通信機用炭素型可変抵抗器 TR282
 - ・半固定抵抗器
 - ・超小型開放型半固定抵抗器 TM4K、TM06
 - ・固定抵抗器
 - ・酸化金属皮膜固定抵抗器 RS1FB
 - ・セメント抵抗器RGB型
 - ・スィッチ
 - ・スライドスィッチSL16
 - ・押しボタンスィッチSM144
 - ・コンデンサー
 - ・微小容量モールド型コンデンサー
- ・CB無線による事業拡大期(1970年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・カーステレオ用可変抵抗器 V16L5G
 - ・4チャンネルステレオ用可変抵抗器VLS01
 - ・ステレオ用ステップ式高級可変抵抗器AP35、
 - ・微調整型可変抵抗器ET-T07
 - ・アッテネーターACRW402,403
 - ・ロータリースイッチ SR382、SRS
 - ・スィッチ
 - ・信号切替用SX15.SX18
 - ・電源スィッチU80DV、U62S1
 - ・セメント抵抗器RGC
- ・ユニット化の展開
 - ・FILM基板採用開始(1980年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・ポテンシオメーターユニット 回転型VK161,162
 - ・スライド型VJKシリーズ
 - ・プッシュスィッチ SQ125
 - ・タクトスィッチ SK1100
 - ・セメント抵抗器
 - ・メタルクラッド抵抗器RGH
 - ・凍結防止ヒーター抵抗器 RGB(H-U)
 - ・ICB製品の初期型発売開始
 - ・前面操作ブロック
 - ・カーステレオ用 IB-CA
 - ・据置型VTR用 IB-VT
 - ・カメラ一体型ビデオ用 IB-VT
 - ・PETフィルム基板の採用開始
 - ・抵抗体にPETフィルムを採用したFILMPOT PINFLEX
- ・ICB製品拡大期(1990年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・FILM抵抗基板採用 XV010,XV91等
 - ・マグネットセンサー開発 TDM
 - ・ICB製品
 - ・自動車電装 IB-CE
 - ・デジカメ IB-DC
 - ・カメラ一体型ビデオ用 IB-VC
 - ・PETフィルム素材を使用した
 - ・FILMキートップ開発
 - ・携帯電話用 IB-CM
 - ・低温半田を開発
 - ・PETフィルムに実装可能
- ・ICB製品拡大期(2000年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・チップ型半固定抵抗器 TMC2K
 - ・中空タイプ
 - ・ポテンシオメーター XV04
 - ・スィッチ
 - ・プッシュスィッチ SF06
 - ・インモールド成形による
 - ・カーブスライドタイプ
 - ・ポテンシオメーター開発 XCS
 - ・薄型テレビ対応電源スィッチ SZ-01,-02
 - ・ICB製品 市場拡大
- ・民生用ICB製品衰退期
 - ・東日本大震災
 - ・タイの大洪水(2010年代)
 - ・可変抵抗器
 - ・高寿命センサー用
 - ・ポテンシオメーター XV0941,XV071,XV099,XVJ09 XLS32,
 - ・チップ型半固定抵抗器
 - ・バリエーション展開 TMC2K,TMC3K
 - ・ロータリーエンコーダ
 - ・基板FILM化 XRE012

新生 NOBLE 転換期



国内拠点の展開地域



海外拠点の展開地域

NOBLE

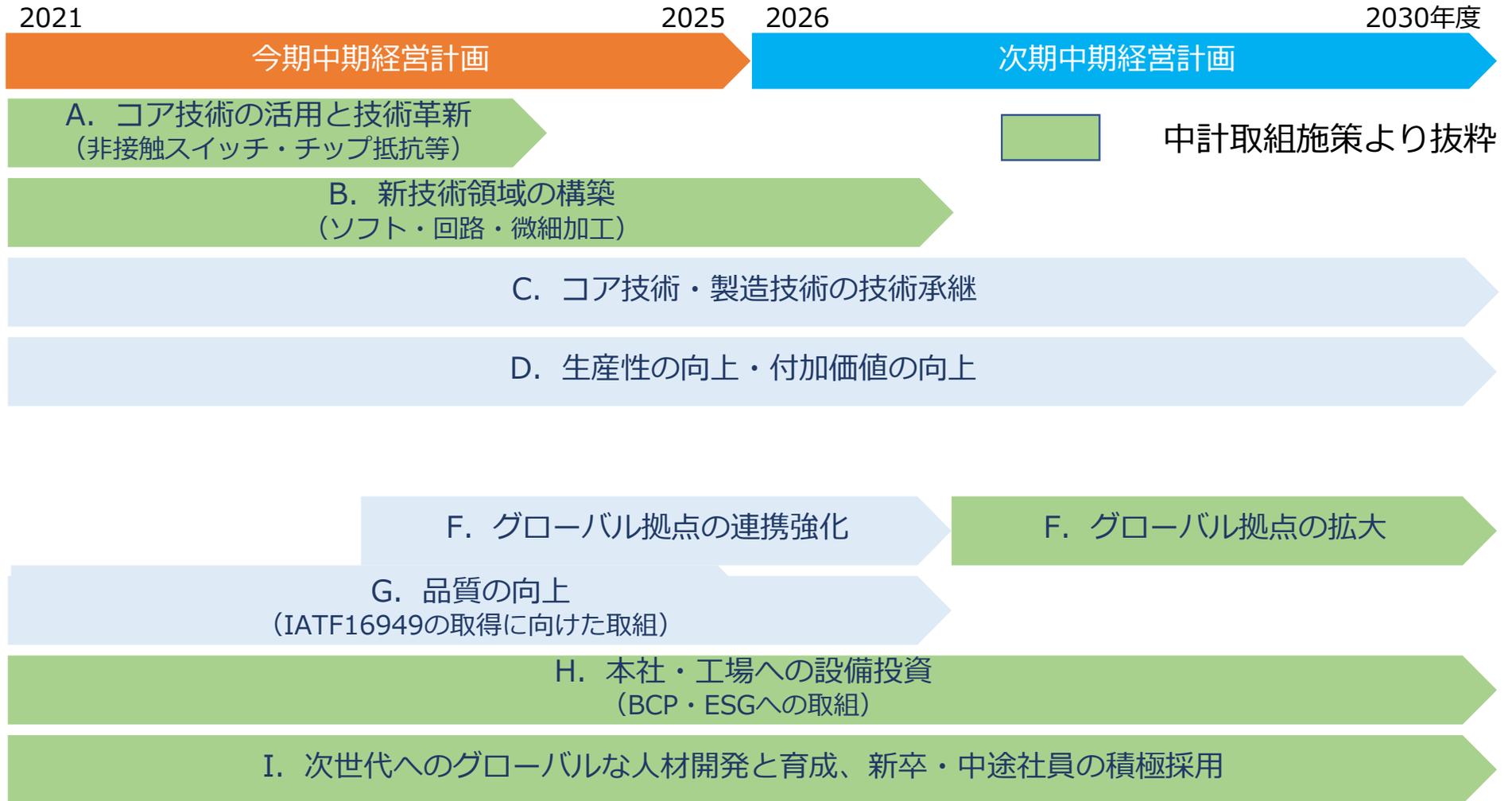


2022年5月11日付中期経営計画一部抜粋

- ▶ 中期経営計画（取組施策）
- ▶ SDGsへの取組

**中期経営計画
(取組施策)**

取組施策の全体像



A. コア技術の活用と技術革新

- 「センサー」「医療」「非接触」をキーワードに開発に注力
⇒薄い・軽い・フレキシブル、かつ環境にやさしい商品開発を実践
- 2022年度から量産開始を計画している商品も複数あり



B. 新技術領域の構築 (ソフト・回路・微細加工)

- 技術を持つパートナー企業との業務提携・共同開発や自社の人材強化等を通じた、ソフト（回路）技術領域の構築を目指す。
- その他、医療・ヘルスケア分野向けのMEMS等の新技術領域の開発を行う。

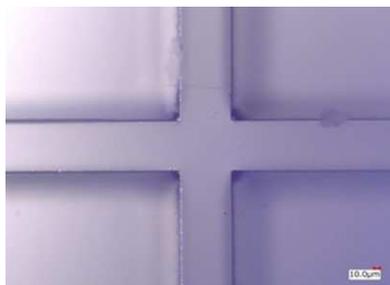
➤ 株式会社S'UIMINとの資本提携（出資金額：2億円）

- ◆ 医療・ヘルスケア・介護
脳波測定ウェアラブルデバイスと人工知能（AI）を
駆使した自動解析による「睡眠計測サービス」への展開
⇒健康問題・社会問題への解決



➤ 新領域開発状況

- ◆ 医療・ヘルスケア
「マイクロ流路 微細加工」



- ◆ インフラ・通信・防災・公共事業
「水位センサー」



- ◆ インフラ・通信・防災・公共事業
「双方向無線通信技術（時刻同期）」

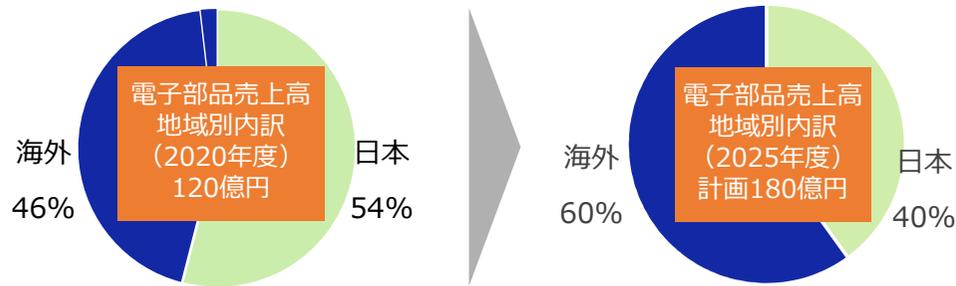


F. グローバル拠点の連携強化・拡大



- 売上高における海外比率46%を2025年度には60%とすることを見込む。
- 海外拠点間の連携を強化することで、国を跨いだ案件の横展開を行う。顧客企業の設計部門や製造部門の動向等からグローバルにおける注力地域を選定し、グローバル拠点の見直し・拡大を行う。

海外売上高比率の向上

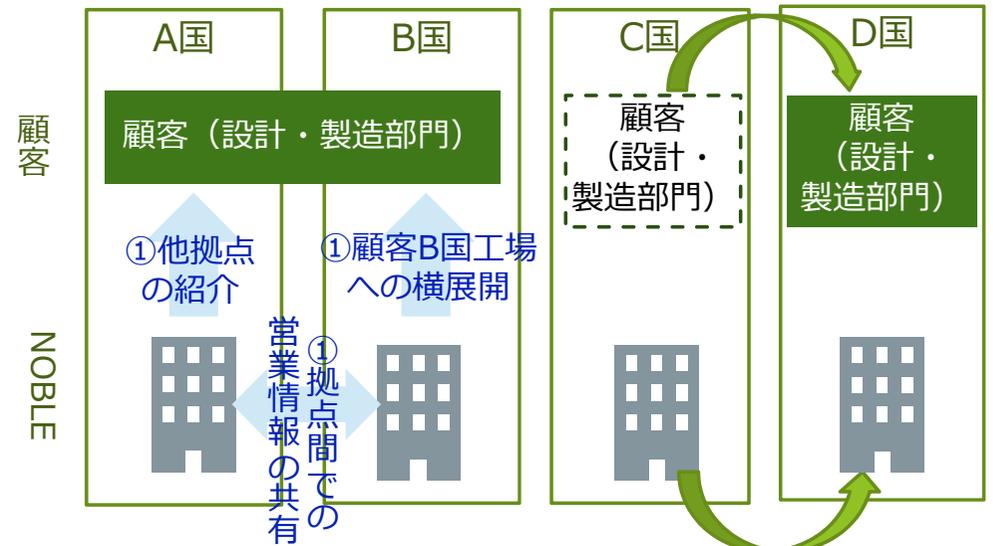


製造拠点と販売拠点の連携した展示会やオンライン展示会等に参加



- ①海外拠点間の連携の強化
- ②グローバル拠点の見直し・拡大

②顧客設計・製造部門の移転



②顧客設計・製造部門の動向を注視した注力地域の選定、拠点の拡大

H. 本社・工場への設備投資 (BCP・ESGへの取組) NOBLE

- BCP（事業継続課題）やESGへの取組として、引き続き本社・工場への設備投資を積極的に行う。

本社



- ・ BCP委員会の継続開催中
- ・ 老朽化建物のBCP検討開始

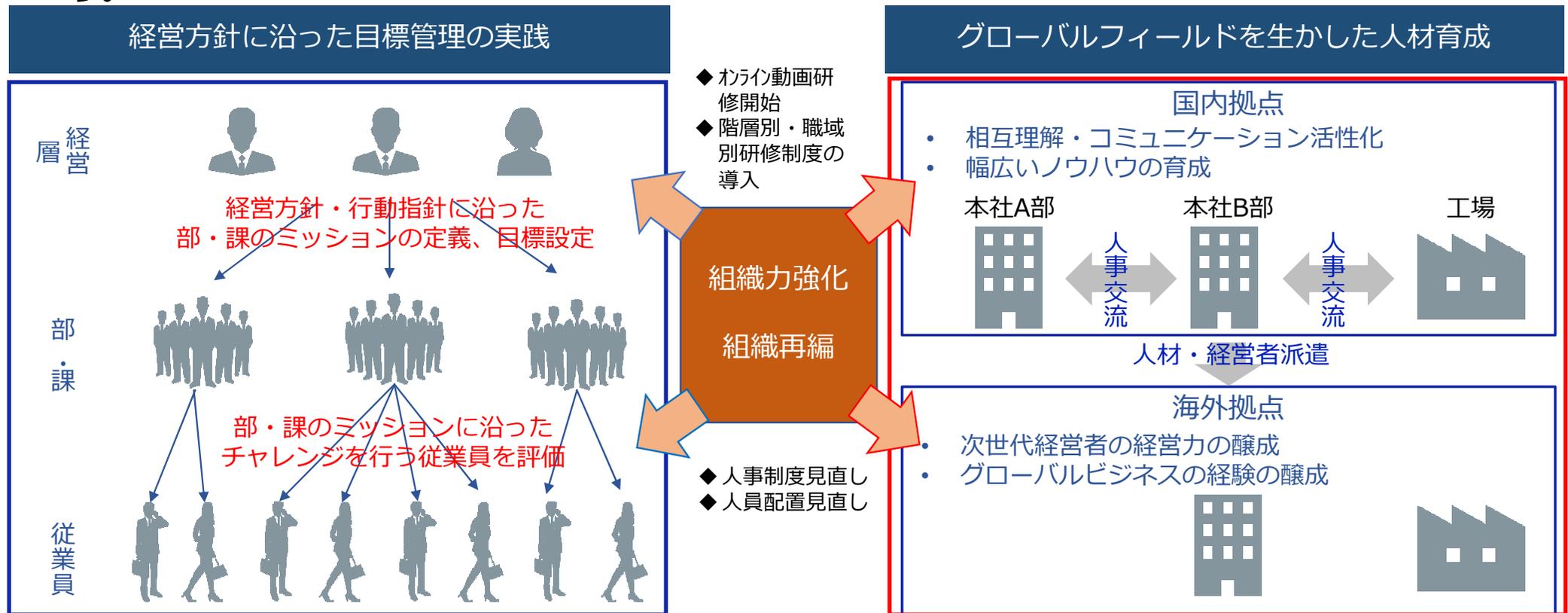
赤穂工場



- ・ ESG投資として熱効率が良い焼成炉導入予定
- ・ フィルム基板への実装内製化等設備更新：アミューズメントや医療・ヘルスケアへの対応
- ・ 老朽化設備順次入れ替え実施中

I. 次世代へのグローバルな人材開発と育成 NOBLE

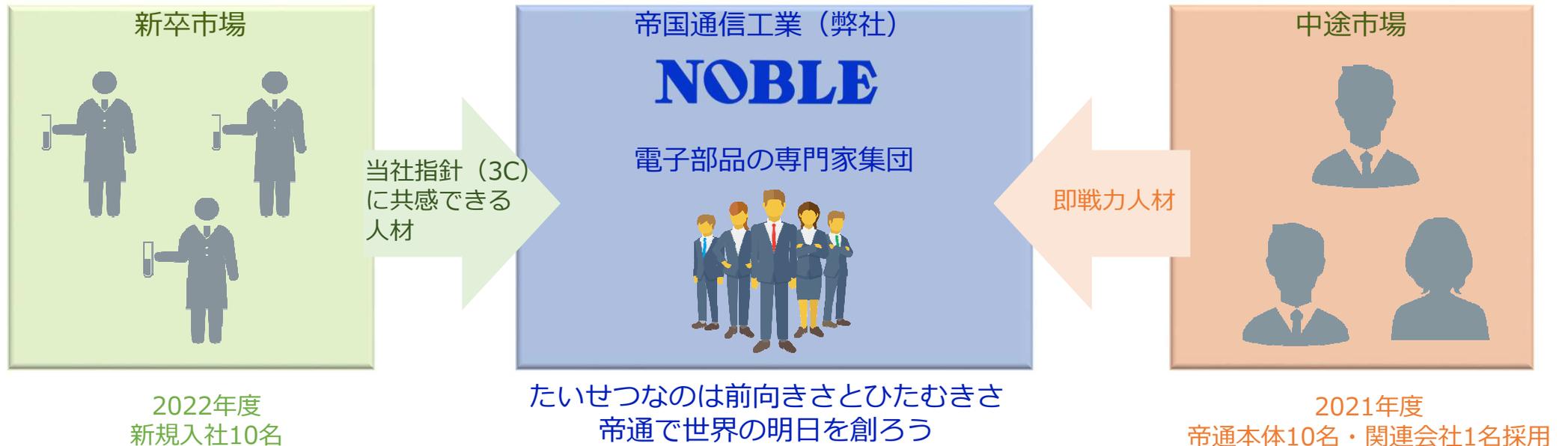
- 経営方針や3つの行動指針に即した目標管理体制を構築し、方針や指針に即した取組を行った従業員が評価される組織風土を醸成することで、従業員の意識改革を行う。
- 国内外、工場・本社との人事交流を活発化し、当社のグローバルフィールドを活用した人材育成を行う。



I. 新卒・中途社員の積極採用

- 新製品開発や販売力の強化、技術承継を目的として新卒・中途社員の積極採用を行う。
- 新卒採用は理系人材を中心に、中途採用は即戦力人材を強化する。

当社の採用方針



SDGsへの取組



- 当社は、企業理念のもと、電子部品の製造とサービスを通じて持続可能な社会の実現に貢献することが、事業の継続と成長を図るうえで重要であると確信している。
- SDGsの活動は、当社の企業理念とも合致する部分があり、その実現に向けた取り組みを経営方針や経営計画に組み込んでいる。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



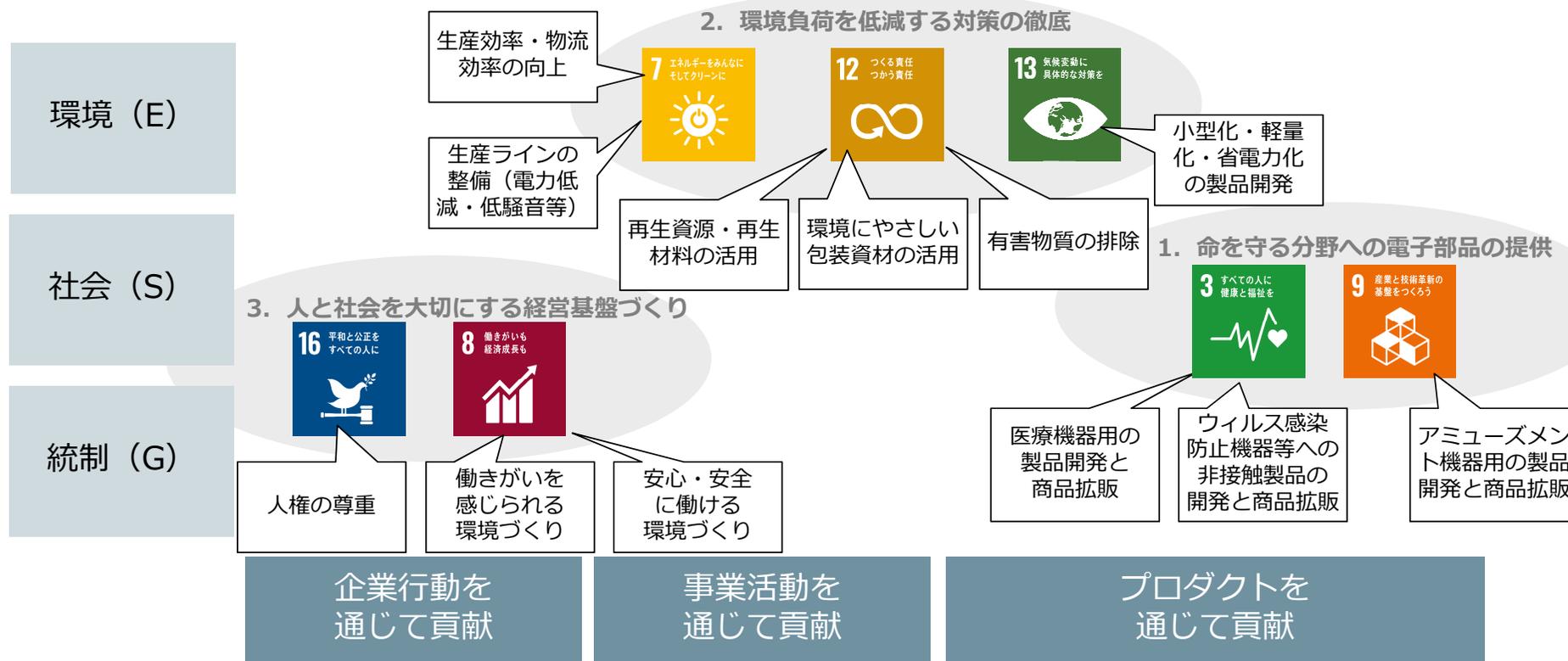
	『 かながわSDGsパートナー 』 帝国通信工業株式会社
	『 長野県SDGs 』推進企業登録 帝国通信工業株式会社 赤穂工場
	『 長野県SDGs 』推進企業登録 飯田帝通株式会社
	『 長野県SDGs 』推進企業登録 木曾精機株式会社

SDGsへの取組



当社は、SDGsへの取り組みとして「3つの柱」を掲げている。

1. 命を守る分野への電子部品の提供
2. 環境負荷を低減する対策の徹底
3. 人と社会を大切にする経営基盤づくり



現在行っている取組



1. 命を守る分野への電子部品の提供



▶ 水位センサーの開発

直接液面に接触せず検知可能なセンシングシートの開発を行っている。非接触のため衛生的で、耐久性・安全性にも優れており、ドリンクサーバー、水田水位計、河川水位などのインフラへの活用が期待される。

▶ 医療・ヘルスケア機器部品の開発・製造・販売

生体信号の測定が可能なディスプレイ電極シートの開発・製造・販売を行っている。心電測定、筋電測定が可能。

2. 環境負荷を低減する対策の徹底



▶ 給与明細のペーパーレス化を推進

給与明細と賞与明細はこれまで紙の明細で配布していたが、Webでの配信を導入したことにより、Web配信へ切り替えた社員約300名分として年換算で約36kgの紙を削減。

▶ サプライチェーン排出量削減の推進 (Scope2)

本社に水力発電由来のグリーン電力を、赤穂工場にCO2フリー電気の導入を開始。2022年度以降、2020年度比15%を削減。

3. 人と社会を大切に する経営基盤づくり



▶ 障がい者の雇用の促進と職業の安定への貢献

弊社関連会社の木曾精機株式会社において、長野県知事より令和3年度『障がい者雇用優良事業所』として表彰される。

▶ 地域社会学への貢献：学校教育

2022年度版の川崎市小学校の社会科副読本「小学校のためのお仕事ノート」に弊社内容の掲載が決定。

これからの取組



1. 命を守る分野への電子部品の提供



▶ 医療・ヘルスケア機器部品の開発

生体信号を測定するディスプレイな電極シートの開発・製造・販売を行っている。
(脳波・心電・筋電測定のほか、血液・尿・唾液等の生化学検査など)

2. 環境負荷を低減する対策の徹底



▶ 不良率の改善による廃棄物の削減

製造ラインバランスの改善、不良原因の調査に取り組む。

▶ 毎月の消費電力を削減

製造ラインの空調設備の最適化、多数使用されている蛍光灯のLED化、老朽化した設備の更新を実施し、電力の削減を目指す。

3. 人と社会を大切に する経営基盤づくり



▶ SDGsに貢献する社員の背中を押す制度を導入

SDGsに取り組む社員を表彰する制度を導入する。

▶ 性別に関係なく着られる制服を導入

トランスジェンダーへの配慮だけではなく、機能面や動きやすさといった面も含めて気軽に選べることを重視する。



NOBLE

帝国通信工業株式会社

本資料に記載されている将来の業績見通し及び予測につきましては資料作成時点における当社の判断によるものであり、外部環境の変化に伴う潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。そのため、様々な要因による経営環境の変化に伴い、実績が本資料に記載された見通し等と大きく異なる可能性があります。

お問合せ先：	帝国通信工業株式会社 経理室
TEL:	044-422-3831
E-Mail:	ir-info@ho.noble-j.co.jp
URL:	https://www.noble-j.co.jp/